

平成27年 第13回帯広市教育委員会会議録

1. 平成27年8月 4日火曜日 8時50分 ～ 16時20分
帯広市教育委員会会議を帯広市役所 10階第6会議室に招集する。

2. 本日の出席委員

教育委員長	田 中 厚 一
教育委員	門 屋 充 郎
教育委員	伊 藤 成 昭
教育委員	藤 澤 郁 美
教 育 長	八 鍬 祐 子

3. 本日の議事日程

日程第 1	会議録署名委員の指名について
日程第 2	議案第 51 号 小学校用教科用図書の採択について
日程第 3	議案第 53 号 高等学校用教科用図書の採択について【非公開】
日程第 4	議案第 52 号 中学校用教科用図書の採択について【非公開】
日程第 5	その他 教科用図書の採択に係る情報の公表について【非公開】 その他

田中委員長

これから、平成27年第13回帯広市教育委員会会議を開会いたします。

出席委員は全員であります。

会議は成立しております。

ここで諸般の報告をいたします。

(福原課長 報告)

日程第1、会議録署名委員の指名を行います。

会議録署名委員は、伊藤委員及び藤澤委員を指名いたします。

日程第2、議案第51号、小学校用教科用図書の採択についてを議題といたします。

直ちに説明を求めます。

嶋崎 部長

議案第51号、小学校用教科用図書の採択についてご説明いたします。議案書は1ページでございます。本件は帯広市立学校管理規則第41条第1項の規定に基づき、平成28年度に市内小学校で使用する教科用図書を採択していただくとするものでございます。平成28年度に使用する小学校用教科用図書の採択につきましては、義務教育諸学校の教科用図書の無償措置に関する法律第14条の規定により、政令で定める期間、毎年度、種目ごとに同一の教科用図書を採択することとされており、政令で定める期間は4年とされており、平成27年度に採択替えを行っておりますことから、平成28年度に使用する教科用図書につきましても、平成27年度と同一の教科用図書を使用することといたしたく、採択をお願いするものであります。以上よろしくご審議賜りますようお願い申し上げます。

田中委員長

これから質疑に入ります。

各 委 員

ありません。

田中委員長

別になければ、質疑を終結します。

お諮りいたします。

議案第51号、小学校用教科用図書の採択については、原案のとおり決定することにご異議ありませんか。

各 委 員

異議なし。

田中委員長

ご異議なしと認め、議案第51号は決定されました。

ここで会議の進め方についてお諮りいたします。

次の日程第3から日程第5の案件については、帯広市教育委員会会議規則第16条第1項第6号により、非公開にいたしたいと存じます。

これにご異議ありませんか。

各 委 員

異議なし。

田中委員長

ご異議なしと認め、そのとおり取扱いいたします。

これより会議を非公開といたします。

日程第3、議案第53号、高等学校用教科用図書の採択についてを議題といたします。

直ちに説明を求めます。

嶋崎 部長

議案第53号、高等学校用教科用図書の採択についてご説明いたします。議案書は5ページでございます。本件は帯広市立学校管理規則第41条第2項の規定により、平成28年度に帯広南商業高等学校で使用する教科用図書につきまして、学校長が選定したことから採択していただくとするものであります。参考といたしまして、議案書8ページ以降に使用教科用図書を掲載しておりますが、平成28年度は計37の教科書を選定いたしております。このうち昨年度からの変更点についてであります。議案書7ページをお開きください。今年度、希望者が少なかったため開設しなかった「国語表現」につきましては、来年度開設予定であることから、新規に教科書を選定いたしました。また、「地理A」につきましては、従来のものよりも写真やイラストを用いた解説が分かりやすく、生徒が自主的に取り組める題材が豊富な教科書を変更選定いたしました。選定にあたりましては、担当教諭による教科会議、教科主任によるカリキュラム委員会、全教職員による職員会議を経て、校長が選定したところでありまして、以上よろしくご審議賜りますようお願いいたします。

これから質疑に入ります。

田中委員長
各 委 員
田中委員長

ありません。

別になければ、質疑を終結します。

お諮りいたします。

議案第53号、高等学校用教科用図書の採択については、原案のとおり決定することにご異議ありませんか。

各 委 員
田中委員長

異議なし。

ご異議なしと認め、議案第53号は決定されました。

日程第4、議案第52号、中学校用教科用図書の採択についてを議題といたします。

直ちに説明を求めます。

嶋崎 部長

議案第52号、中学校教科用図書の採択についてご説明いたします。議案書は3ページでございます。本件は、帯広市立学校管理規則第41条第1項の規定に基づき、平成28年度に市内中学校で使用する教科用図書を採択していただくとするものであります。中学校用教科用図書につきましては、昨年度、文部科学省の検定が行われ、今年度は採択替えの年にあたります。昨年度の検定を経た教科用図書につきましては、去る6月4日に帯広市教科用図書選定委員会に諮問し、調査研究を行っていただき、7月23日に答申があったところでございます。本日、委員の皆様には、この答申に基づ

きまして、種目ごとに1種の教科用図書を採択していただくものでございます。なお、特別支援学級の教科用図書につきましては、帯広市においては、これまで文部科学省著作の国語、数学、音楽の3種目を使用してきたところでございますが、昨年度の採択以降も改訂がなされていないことから、平成28年度につきましても、平成27年度と同一の教科用図書を使用することといたしたく、採択をお願いするものでございます。以上よろしくご審議賜りますようお願い申し上げます。

田中委員長

これから平成28年度に使用する中学校用教科用図書の採択にかかる審議を教科ごとに行います。最初に国語の審議を行います。国語につきましては、5種から採択を行います。

それでは各委員からご感想やご意見を自由に述べていただきたいと思えます。伊藤委員からお願いします。

伊藤 委員

5社の教科書をくまなく見させていただき、その中からいくつかの教科書を抽出し、さらに見比べながら分析した結果、私は教育出版を推薦いたします。その理由としては、国語科では、「聞く・話す」「書く」「読む」をバランスよく学び、最終的には生徒相互が分かりやすく伝え合う力、即ちコミュニケーション能力を育成することに目標が置かれております。教科書によりますと、題材を学ぶにあたっては、生徒個々、また生徒相互で各種題材に対して、批評、論説、評論しあいながら学ぶことができる配慮がなされております。また、自ら学ぶ態度の育成を図る観点から、「身につけたい言葉の力」「この教科書の使い方」のほか、教科書の随所に「ここが大事」「目標と振り返り」欄が散りばめられ、自主的に学ぼうとさせるようになっております。特に学習の見直しや振り返りに生かすことのできる「記録をしよう」欄を設け、改めて書くこと、書き留めることへ重要性に気づかせるような配慮もなされていると思えます。教科書題材を学ぶことにより、題材への興味関心を高めることに加え、題材ごとに関連図書を推薦、例えば、作者の関連図書への広がりにつなげたり、多くの推薦図書を一覽し、各種作品への関心を高めることができる扱いもなされております。さらには伝統的な言語文化に対しても、興味深い作品を数多く取り上げ、日本の伝統的文化への親しみや広がりにも配慮されており、全学年をとおして、「四季のたより」という欄を設け、四季折々に日本の伝統言語文化、古典、俳句、短歌、ことわざなどに触れるように排列されており、古典に対しての親しみ感をより抱かせるような配慮もなされていると思えます。最後に、とかく言語事項に関しては、生徒は苦手意識を持ち、基礎・基本が定着しない傾向が多く、調査から浮き彫りになっているようですが、それを解決すべき手立てが巻末にある「言葉の自習室」ではないかと思えます。日々自らの学びに対して、確かめや振り返り

の重要性を説き、学年別に言語事項の重要性や必要性を一覧表にてまとめ上げ、解説を加え、自らの学習への再確認に役立つような配慮がなされております。こういった理由から教育出版を推薦したいと思っております。

田中委員長
門屋 委員

ありがとうございます。それでは門屋委員お願いします。

私も東京書籍、光村図書、教育出版を残して検討させていただきましたが、多少迷いました。学習指導要領で「伝え合う力を高めるとともに、思考力や想像力を養い言語感覚を豊かにし」ということで、前回とは少し変わった文言にもなっていましたけれど、国語は日常生活の言語活動を学ぶことから、基礎的な学習が重要と考えて、選ぶ基準として考えておりました。国語はすべての教科の基本となりますので、「読む力」「書く力」「話す・聞く力」の柱を明確に示していることから、分かりやすく取り組みやすさの感じられた教育出版を選びました。教育出版は前回に比べてページ数を増やし、他の教科書と比べて情報量が一番多かったことも良かったと考えています。一貫して「伝え合う言葉」をテーマとして、1年生では「言葉が世界と結ぶ」、2年生では「言葉が世界を表す」、3年生では「言葉が世界をつくる」というテーマを設けて、意識をさせるような工夫がなされていたと思えました。表紙の裏に加藤周一の言葉についてエッセイが3年間載っていて、言葉についての意味合いを一度考えてみるということで、意識させることが良かったと思えました。伊藤委員も申し上げていた「ここが大事」や「みちしるべ」などを設けていて、それも分かりやすく良かったと思います。教材は総じて他社と大きく変化はないとも思いましたけれど、それぞれ考えられた作品を載せていたように思います。3年生では、魯迅の「故郷」、村上春樹の「バースデイ・ガール」があり、中学生にとって、少し難しいのではないかと感じましたけれど、多様な言葉に触れられること、話題としては中学生の日常的とは言えない内容ながらも、人間の生き方を考え、自分としての意見を持つことを中心として学ぶことができると思います。いつか自分も二十歳になった頃のことを、もう少しで届くような年齢の時に村上春樹が書いているわけですが、あこがれや関心を強く持つ年齢の時に大人を意識することになるということ、国語を通してそういったことも学べると思いました。1年生の「世界をひらく」の單元では、ハンス・ペーター・リヒターの「ベンチ」が載っていて、今の1年生には想像困難な時代であるわけですが、その内容は自分の気持ちを十分に重ね合わせられると、引き込まれて気づくと背景の大問題にも出会うというような、ワクワク感のある作品であり、それも良かったと思います。私も「言葉の自習室」が設けられていたことがとても良くて、発展的な学習機会が作られていたと考えていますし、内容も大変質の高い

もので国語力を高めるのに相応しいと思いました。加えて言えば、1年生で取り上げられていた小檜山博の「風少年」とか、藤本英夫の教科書のために書き下ろした知里幸恵のユーカラ研究の話など、大変良かったと思います。本の紹介もところどころに挿入されていて、まとめてたくさんの紹介ではないところも良かったと思います。そういう意味で教育出版を選定いたしました。以上です。

田中委員長
藤澤 委員

ありがとうございます。それでは藤澤委員お願いします。

どの教科書もそれぞれ工夫されていまして、優劣つけ難い印象でした。他の教科にも国語の力が関連しますので、国語は最も基本となる重要な教科であると思います。結論から申しますと、教育出版を選ばせていただきました。「伝え合う言葉」と題しまして、巻頭に1年生は「言葉とは何か」、2年生は「言葉の楽しみ」、3年生は「日本語の特徴」と国語教育の基本となる言語力の育成となる言葉の説明がされていました。身に付けたい言葉の力を踏まえて学期ごとに教科書が構成されていまして、教科書の使い方も示されています。「みちしるべに取り組もう」では、学習の進め方や重点が示されていて、最後に関連図書の紹介をする内容で、生徒が主体的に学習するような工夫がされているように思われました。授業で使用するための教科書であります。生徒が予習復習しやすいような構成になっているため、学習意欲が増し、家庭学習がより望め、国語力が増すように思われました。また、「読んでみよう」の読書案内では、多数の作品が紹介され、生徒を読書へと誘う工夫がされているように思いました。巻頭・巻末の「文学にゆかりある風景」紹介は過去の著名な作家と作品の場所が掲載されており、日本文学に親しむきっかけになるような気がしました。冒頭に申しましたように、他の4つの教科書も言語力の育成の点からいって、差異はほとんどないと感じましたが、家庭学習が確立できるという利点で教育出版が良いのではないかと思います。

田中委員長
八鍬教育長

ありがとうございます。八鍬教育長お願いします。

すべての教科書が検定を通過しておりますので、全教科において比較検討しながら見せていただいております。最初に国語でございますけれど、国語は正確に理解していく能力を育てていく、また、言葉、表現で自分の思いや考えを伝えていく力を高めて、思考力や想像力を養って、なおかつ言語感覚を豊かにしていくという目的があると認識しております。どの出版社も文学作品やコラム、写真などが大変豊富でバランスが取れていると思いました。最終的には教育出版を推薦したいと思います。その理由をいくつかあげますと、まず、私は表紙を必ず見るのですけれど、そこにメッセージ性を感じるものがありました。各学年の表紙には「伝え合う言葉」と示していて、言葉が人と人、国と国、あるいは世界につながり、大変重要

であるというメッセージが伝えられていると感じました。また、目次に教科書の構成、内容、使い方を簡潔にまとめていて、導入としては分かりやすかったと思います。総合的な言語力の育成を重視していて、国語の基礎となる「話す・聞く」「書く」「読む」の学習のねらいが分かりやすく掲載されていると思いました。「みちしるべ」では教材の目標と学習内容を示すともに、「ここが大事」というコーナーでは学習内容を振り返り、基礎・基本的な知識、技能を習得することができるように工夫がなされておりました。「学びのチャレンジ」を通して、国語の世界で切り離せない日常生活、あるいは社会生活での言語能力を身に付けることができる工夫がされていると思いました。また、各学年の巻末には、司馬遼太郎、星野道夫、ユーカーラ研究に取り組んだ金田一さんと親交の深かった幸恵さんの「銀のしづく降る降る」など身近な作者の作品を取り上げながら、補充的な作品を掲載しているとともに、学年に応じた読書案内など、幅広い情報収集の方法を示した「言葉の実習室」などの工夫がなされておりました。また、伝統的な言語文化について、分かりやすく工夫されておまして、「四季のたより」を全学年に掲載しており、日本の豊かな四季を通して伝統文化にも触れることができると思いました。以上の理由で教育出版を推薦したいと思います。

田中委員長

ありがとうございます。最後に私から意見を申し上げたいと思います。重複しない形で申し上げたいと思いますが、結論を申し上げると教育出版がいいのではないかと判断しました。まず1つとして、バランスがいいという話に尽きるということです。伊藤委員が言われていた「聞く・話す」「書く」「読む」そこから生まれるコミュニケーション能力の育成をかなり意識されて教科書を作られていることがよく分かりました。教育長が言われた冒頭の「伝え合う言葉」のメッセージ性にも顕著に表れていると思います。皆さんと意見がかぶらないところで1点だけ申し上げると、昔から掲載されている古典的な近代作品、「蜘蛛の糸」などいくつかあったと思いますが、必ずしも固定された読み方でずっときているわけではなくて、当然ですけれど様々な読み方が出てきています。個人的な解釈ですけれど、教育出版が一番今日的な解釈の有りようを引き出しているように読めました。小説にしろ、他の言語表現は常に流動的で然るべきものでありますので、これが正解という形ではない、多様な意見を吸い上げるように出てきていると理解をしていますので、その意味でも、教育出版の教科書が良かったと思います。また、夏目漱石や森鷗外、芥川龍之介などの履歴がかなり詳細に掲載されておりました。もう1点、内田樹氏の学力に関する文章が出ておりました。中学生にきっちり説明することはかなり意味があったと思います。点数偏重主義ではなく、学力一辺倒だけではない、学力とは何ぞやと

いうことを明確に書き示していること、教科の方向性が明確に出ていたと思われました。以上のことから、私も教育出版がいいのではないかと思われました。もちろん教育長が言われておりましたけれど、すべての教科書でそれがないということではありません。これだけは付け加えさせていただきたいと思えます。

田中委員長

他になれば、以上で発言は終了いたします。

皆さんのご意見を総合いたしますと、国語の採択すべき教科書は教育出版というご意見で全員一致しております。

教育出版を採択することにご異議ありませんか。

各 委 員

異議なし。

田中委員長

ご異議がないようですので、採択理由を確認するために休憩いたします。

(休憩)

再開いたします。

ここでお諮りいたします。

「国語」の採択につきましては、『「伝え合う力」コミュニケーション能力を育成するため、総合的な言語力の育成を重視し、国語の基礎基本となる「話すこと・聞くこと」「書くこと」「読むこと」について、身につけたい力や学習のねらいが分かりやすい作品などが、バランスよく掲載されていること。多様な言葉に触れたり、惹き込まれたりする作品が多く掲載されるとともに、北海道ゆかりの作家の作品などの補足的な作品が掲載され、題材との関連から一読してみたい気持ちを生徒に持たせる工夫がされていること。「みちしるべ」で教材の目標や学習の進め方等を示し、「ここが大事」で学習内容を振り返るなど、生徒が主体的に学び、基礎基本的な知識・技能を習得できるような工夫がされていること。「読書案内」や「読んでみよう」では、題材との関連を図りながら、身近な作家の作品等を多数掲載し、生徒を読書へと誘うよう工夫されているとともに、巻末の「言葉の自習室」では、国語力を高めるために、自らの学習を確かめたり、発展的な学習の機会が設定されたりしていること。「四季のたより」を全学年に掲載し、古典、俳句、短歌など多様な読みを行う工夫がされ、日本の四季折々の様子を通して、伝統文化に親しみをもって触れることができるようになっていること。』などの点から、発行者、教育出版の教科書を採択することにご異議ありませんか。

各 委 員

異議なし。

田中委員長

ご異議なしと認め、そのように決定いたしました。

次に書写の審議を行います。書写につきましては、5種から採択を行います。

それでは各委員からご発言願います。伊藤委員からお願いします。

伊藤 委員

教育出版を推薦いたします。その理由としましては、中学校でも硬筆と毛筆の関連が重要視されており、小学校での楷書主体の書体から中学校ではより早く書く書体が求められておりますことから、行書を学ぶということになっております。小・中との連関を重視しながらも、中学校においても自らの実生活に大いに生かすことも求められており、そういった観点から学習する題材ごとに硬筆・毛筆との関連を見極める意味で、見開きページ方式を採用し、題材ごとに狙いを完結することができるように構成されております。そのことにより、生徒にとって学びやすく、使いやすく、そして実用に生かしやすい工夫がされていると考えます。楷書に加え行書を学ぶことから、文字や書体への興味関心を高め、創作意欲を喚起する観点から、多くの著名な作家の作品、国語科との関連が考慮されております。例えば、「竹取物語」「枕草子」「おくのほそ道」などを関連させて掲載し、なぞり書きや臨書への導き、そして書・芸術としての書写から書道への誘いが適度になされるような配慮もなされているのではないかと思います。最後に、学習活動や日常生活に生かすことが最終目標となっている書写活動であります。各学年に見合った文字文化活動場面や豊富で興味深い書体例を数多く掲載し、自らの願いや発想などを容易に表現したくなるような配慮もあります。また、小学校既習漢字と中学校新出漢字一覧を巻末にまとめ、楷書体と行書体への学びと振り返りにつながるような構成となっております。大いに実生活にも利用できるような工夫がなされていると思われまので、こういったことから教育出版を推薦したいと思っております。以上です。

田中委員長
門屋 委員

ありがとうございます。それでは門屋委員お願いいたします。

私も伊藤委員同様に国語の教科との関連や教材が多かったということで、勉強しやすいのではないかと思います。教育出版を選ぶことにいたしました。教育出版は、最初に基本的な用途に応じた筆記用具の種類、これは他の教科書もあまり変わらないなとも思いましたけれども、学年ごとに目次を付けたり、学ぶべき内容について全体が分かるように唯一示していたように思います。特に主体的な学習を促す内容は、他の教科書に比べて一番多く取り上げていたと感じました。そのことは生徒の取り組み動機を喚起するのに役立っていると感じた内容が多かったわけです。学習を生かして書くというようなことを取り上げていて、現代社会でパソコンやメールが日常的となっているわけですが、書くことの重要性、あるいは興味をそそるような学ばせ方が必要だと強く感じていましたので、色々な工夫をなさっていて、例えば、ペーパーフレームを作るとか、メッセージカードを作るといった取り組み方も工夫がなされていて良かったと思っています。楷書や行書の説明も文字の変遷という甲骨文

字からひらがなやカタカナまでの歴史として取り上げる部分は興味をそそるのではないかと感じました。最後に、高村光太郎の詩が載せてありましたが、中学生の高校受験を控えているような時に、自分で何かを選択するような時期に、この詩に出会うということは、個人的に私にとっては大変意味があったので、中学生にとってこういう詩を読んでいただくことはいいと思って、この教科書を選びました。以上です。

田中委員長
藤澤 委員

ありがとうございます。それでは藤澤委員お願いいたします。

私も教育出版を推薦させていただきます。中学校3年間で学ぶべき内容が目次できちんと明示されていて、書写学習の構図が大木のイラストで分かりやすく示されていました。最近、パソコンやスマートフォンの普及で文字を書くという作業が減っている中で、文字本来の役割を学習することが大切だと思われます。学年ごとに学習の進め方、学習の手順が示されていて、生徒が主体的に学習に取り組む工夫がされているように思いました。文字には人と人をつなぐという役割があります。目的や伝達効果を考えて筆記用具を選び、書き表し方などにも様々な工夫がされなければならないと思います。いろいろな用途の文字の書き方が丁寧に記載されていて分かりやすいと思います。文字を書くことの本来の目的は、文章や言葉の内容を伝えることですが、書かれた文字の読みやすさとは異なる美しさが、平安時代に見出されていた芸術としての書道であるという掲載が巻末にあったのも印象に残りました。「竹取物語」「枕草子」「おくのほそ道」など、国語の教材の一部が書写の教材として掲載されていたことも、教育出版を選ばせていただいた理由の1つです。以上です。

田中委員長
八鍬教育長

ありがとうございます。それでは八鍬教育長お願いします。

私も教育出版を推薦したいと思います。硬筆・毛筆いずれについても、筆順、あるいは字の形などが赤黒しっかりと影を付けて工夫しながら、留意点がとても分かりやすく丁寧に扱われていると思いました。それから、芸術の他に日常生活での色々な活動、ポスターもそうなのですけれども、様々な形で工夫して実務に使うことができ、実生活の中で役立つことも必要だと思っています。そういった意味では依頼状、あるいはお礼の手紙など関連性を持たせながら、そういった活動を取り上げていていいと思いました。それから、実物大の作品が掲載されていたり、左右見開きのページで扱っていただきましたので、生徒にとっては大変使いやすく、分かりやすい工夫がされていると思いました。それから、楷書、行書、仮名、そういったものが基本から発展へと学習を進めていて、発達段階に応じて学ぶことができる構成となっていると思いました。そういった意味で教育出版を推薦いたします。

田中委員長

ありがとうございます。それでは私の方からも意見を申し上げたいと思います。私も教育出版がいいのではないかと思います。理由は重複するかもしれませんが、以下何点か申し上げたいと思います。国語の教科書と連動するということが1つあります。これは、金子みすゞの詩ですとか、「竹取物語」とか皆さんおっしゃったようなことがあると思います。それから、2つ目に芥川龍之介や宮沢賢治の直筆原稿が載ってしまっていて、門屋委員がおっしゃっていたと思いますが、書くことの個性とか意味とか、失われたものをもう一度確認するという意味でも大事なことだと思いました。3点目は、教育長が言われたとおり、手紙とか、包み紙とかの書き方は、日常生活、実生活に触れてくる部分での書写の意味や意義がかなり明確に出ていたように思います。もう1点、帯広では体育祭とか運動会のシーズンで応援旗を必ず作ると思うのですが、実は教育出版には出ておりました、イメージ化しやすいということもありました。それらの点で、実は教育出版と東京書籍でかなり悩んだのですけれども、以上の点から、教育出版を推薦したいと考えました。以上です。

田中委員長

他になければ、以上で発言は終了いたします。

皆様のご意見を総合いたしますと、書写の採択すべき教科書は教育出版というご意見で全員一致しております。

教育出版を採択することにご異議ありませんか。

各 委 員

異議なし。

田中委員長

ご異議がないようですので、採択理由を確認するために休憩いたします。

(休憩)

再開いたします。

ここでお諮りいたします。

「書写」の採択につきましては、『毛筆と硬筆の関連を図り、題材ごとに見開きで目標が完結されるように構成されていて、実物大の作品が提示されるなど、生徒にとって学びやすく、実用しやすいよう工夫されていること。中学校3年間で学ぶべき内容が目次で明示され、書写学習の全体がイラスト等で分かりやすく示されるなど、生徒が主体的に学習に取り組めるよう配慮されていること。「学習を生かして書く」において、ポスターの掲示物や依頼状、お礼の手紙や包み紙、応援旗等を活用し、目的別の書き方を学べるようになっており、実生活との関連を図った活動が取り上げられていること。楷書、行書、仮名など、基本から発展へ学習を進め、発達段階に応じた構成になっていること。国語科との関連教材や多くの著名な書家の作品が掲載されていること。』などの点から、発行者、教育出版の教科書を採択することにご異議ありませんか。

各 委 員
田中委員長

異議なし。

ご異議なしと認め、そのように決定いたしました。

次に地理の審議を行います。地理につきましては、4種から採択を行います。

それでは各委員からご発言願います。伊藤委員から願います。

伊藤 委員

東京書籍を推薦いたします。地理的分野においては、世界や日本の国土に関する様々な違いや特徴を把握し、自ら課題意識を持って解決していこうとすることが求められておりますので、そのための基本である地理的スキルが重要視されなければなりません。その点、要所要所に「地理スキル・アップ」という欄が用意されて、地理的スキルをアップさせながら、そこから浮かび上がってきた新たな違いや課題、問題点などを比較的容易に分析できるように工夫されていると思います。その中で気づいた違いや課題などをより分析しやすく、より質の高い解決へと結びつけるために、教科書全体に適度にキャラクターが散りばめられております。中でも各章ごとに教師役のキャラクターが振り返りを求めたり、気づかせたりしております。特に小学校の既習学習の振り返りを促したり、また、その都度適切なアドバイスをしております。そういったことが学習への深まりや確かさを学ぶ上で非常に効果的ではないかと考えられます。また、より高度で質の高い学習のために、追求テーマの欄を設け、新たな課題を生徒に投げかけ、地理的分野での興味関心をより高めることに役立っていると思われれます。最後に北方領土やアイヌについての題材に加え、十勝地方を取扱った題材も豊富で、このことから、地理的学習への興味・関心への深まりが期待されます。さらには自然・環境、特に自然・災害とその被害や防災への関心度も高めるようになっているとともに、学んだことを家庭での実生活の中で、特に家族ぐるみで調べたり、学んだりすることができるような構成、内容、あるいは取り扱いになっているといったことから、東京書籍を推薦します。

田中委員長
門屋 委員

ありがとうございます。続けて、門屋委員願います。

地理というのは地球上の様々な環境と地域特性を踏まえた人間の生活の成り立ちとか、生活の内容などを学ぶ教科だと思っていまして、自然と社会であるとか、経済、文化、言語などの実態とそれらの関係性を理解する教科だと考えています。分かりやすく理解できるようになっているのを選択の基準として検討させてもらったわけですが、最終的には私も東京書籍を推薦します。東京書籍は全体を通して、「地理にアクセス」というコラムがたくさん書かれていて、発展的理解を促したり、説明をしてくれたり、私は分かりやすいと思いました。「地理スキル・アップ」がところどころに設けられていたことや各章末に「深めよう」のページを設けて、イスラム教徒の生

活やアジアで交流する文化、大自然を生かして観光開発という国際社会の紹介など、我が国に関しても、関東地域の人口集中の課題や北海道ではアイヌの人々と多文化共生などを取り上げていたこと、章の最後には「この章の学習を確認しよう」というページでまとめていることが、区切りをつけている意味でもいいと思いました。地球、世界を取り上げ、多様な民族の生活や宗教の違い、身近で関心を向けやすい食文化などを取り上げていて、日本との関係を俯瞰する展開から始めていました。色鮮やかな写真や沢山のデータなどを載せていたのも興味関心を促すように工夫されていたと思います。地理は自分たちの暮らしている地域の環境を理解することから始められることが地理への関心を深めるとは思います。東京書籍には十勝の寒地住宅、酪農や畑作、あるいは菓子を全国に届けるといった身近に触れられる教材が載っていたことも、興味・関心を強く引き出してくれると感じました。締めくくりとして、調査研究を取り上げて、生徒自身で課題を立てて調査し、まとめて、地域を知り、見直し、報告し合うという学習を進めていたのも良かったと思います。以上です。

田中委員長
藤澤 委員

ありがとうございます。藤澤委員お願いします。

私も東京書籍を推薦します。教科書のはじめに宇宙から見た地球の写真が大きく掲載しているのが印象的で、私たち人類が地球という惑星に暮らしているということを改めて認識させるものでした。東京書籍は地理学習を進めていく上でも、様々な配慮や工夫がなされているように思われました。一緒に学習していく友達4人、先生2人の登場人物がいて、項目ごとに質問、解説等があり、「地理スキル・アップ」では地理の学習を進める上での技能の習得、「調査の達人」では調査学習を進める上での技能の習得、「地理にアクセス」では本文での学習を詳しく説明したり、関連する内容を取り上げたりして、発展的な学習ができるようにも工夫されていました。「テーブルブレイク」では、雑学的な知識も得られ、生徒が興味を持って自主的に学習できる構成になっているように思われました。写真や地図、図表が分かりやすく配置され、巻末の統計資料も分かりやすかったです。世界と日本の姿、人々の生活と環境がバランスよく取上げられ、学習しやすい内容であると思われました。日本の諸地域の学習では、地域の特色を捉える7つの視点、環境問題・環境保全、人口・都市村落、歴史的背景、産業、他地域の結びつき、生活・文化、自然環境、7地方の組み合わせで、地域の事象に注目して、地域の特色を成り立たせている条件を考えていくという進め方が各地域を様々な角度から捉え、体系的・系統的に学習することを導いている感じがしました。北方領土が日本固有の領土であることについて、歴史的、地理的背景の資料が掲載されていることや北海道地方の十

勝に関するものでは、広大な十勝平野では畑作・酪農が盛んなこと、地元の農畜産物を使用して作った、安全でおいしいお菓子を全国に届けようとがんばっておられる地元の菓子メーカーの社長のお話など、生徒が郷土学習に興味を抱かせる内容が載せてあるのも良かったと思いました。北海道の先住民族であるアイヌの人々の文化や生活習慣の継承を国家・国民として、共生という方法で掲載しているのも共感を覚えました。以上のことより東京書籍を推薦いたします。

田中委員長
八鍬教育長

ありがとうございます。八鍬教育長お願いします。

いろいろ見させていただき、結論としては、東京書籍を推薦したいと思います。地理というのは、自らの足元をしっかりと確認して立っていく、あるいは日本や世界への知識や興味関心を育てていくという意味では、大変大切な教科だと思っています。東京書籍はサイズが使いやすく、見やすいほか、地図や写真、データなどが大きく鮮明で、生徒が進んで学習に入っていけるような工夫が見事になされていると思いました。地理と同時に、他の地域や国々の生活、文化や伝統について幅広く学ぶ工夫がされていて、全体としてバランスがいいと思いました。日本最大の畑作地域であります十勝についても、栽培している作物を取り上げるとともに、輪作や土作りも取り上げ、輸入作物との関係や安全性に配慮した地産地消などもしっかり記載されていて、生徒にとって大変身近に感じられ、学習意欲向上につながる工夫がなされていると思いました。世界各地の人々の生活や環境を学びながら、グローバルな視野を持ち、日本各地の環境問題や文化・伝統など、系統的に学習ができる工夫がなされていると感じました。皆さんも話されていたとおり、「地理スキル・アップ」のコーナーで学習を広げていく工夫や、「深めよう」のコーナーでは北海道のアイヌの文化や歴史を丁寧に取り上げていました。また、北方領土についても、歴史的・地理的背景の資料を掲載して、領土問題に関して大変丁寧に取り上げていると思いました。以上のことから東京書籍を推薦します。

田中委員長

ありがとうございます。それでは私からも発言したいと思います。私も実は東京書籍と教育出版で悩んだところがありましたが、結論を申し上げますと、東京書籍を推薦したいと考えます。理由を以下説明させていただきます。何人かの委員もおっしゃったとおり、視感的ではありますけれど、写真がきれいだという観点、主体的に学ぶことができるところ、「地理スキル・アップ」「地理にアクセス」などのコラム欄が充実しているところが良かったと思います。最近の傾向としては、自学自習をどうやって教科書で子どもたちに促すことができるかということがポイントになってくると思います。反転授業でも話題になっているように、最初に自宅で勉強して、学校で復習する形で定着させるという流れを思うと、東京書籍が一番そ

れに近い、予習、復習を促すような作りになっていると思いました。また、東京書籍に多様性を感じましたし、多角的な視点で生徒の興味関心を引く形になっていると思いました。アイヌの人々の関係性についても、かなりしっかり書かれていて良かったと思いました。北海道・十勝に関しての記述も詳細で、特に十勝平野の大きな写真を使ってくれているところもありがたいと思いました。以上のことから東京書籍が一番良いと思った次第です。

田中委員長

他になければ、以上で発言は終了いたします。

皆さんのご意見を総合いたしますと、地理の採択すべき教科書は、東京書籍というご意見で全員一致しております。

東京書籍を採択することにご異議ありませんか。

各 委 員

異議なし。

田中委員長

ご異議がないようですので、採択理由を確認するために、休憩いたします。

(休憩)

再開いたします。

ここでお諮りいたします。

「地理」の採択につきましては、『日本の諸地域や世界の諸地域がグローバルな視点で適切にバランスよく取り上げられており、各地域を様々な角度から捉え、体系的・系統的に学習できるようになっていること。「地理スキル・アップ」「地理にアクセス」など、コーナーやコラムが充実しており、生徒が主体的に課題を設定し、小学校との関連を図りながら解決への方策を見つけやすくすることができるなど、学習意欲の向上と地理的技能の定着につながるようになっていること。アイヌの人々の文化や日本固有の領土である北方領土など、北海道に関する記述や写真、資料が適切に掲載されているとともに、十勝平野が詳しく紹介されており、身近な地域の畑作や酪農、農畜産物を生かした食品などについても触れられているなど、生徒にとって親しみやすく、郷土への関心を高めることができるようになっていること。地球環境問題や多文化共生、自然災害や防災など、今日的な課題について、生徒自らが興味関心を高めるような内容構成となっていること。色彩、字体などに配慮され、写真や地図、図や表が見やすく配置されており、統計資料も分かりやすく、生徒の学習意欲が高まる工夫がされていること。』などの点から、発行者、東京書籍の教科書を採択することにご異議ありませんか。

各 委 員

異議なし。

田中委員長

ご異議なしと認め、そのように決定いたしました。

次に歴史の審議を行います。歴史につきましては、8種から採択を行います。

それでは各委員からご発言願います。伊藤委員からお願いします。

伊藤 委員

東京書籍を推薦いたします。8社という沢山の会社の教科書を手に取り、様々な角度から検討させていただきました。教育出版と東京書籍を比べながら見たわけですが、最終的には東京書籍を選びました。東京書籍の場合は、歴史に関して大所高所から見ているという記述が多いように感じ、そういった観点で見させていただきました。まず、教科書を見ますと、歴史の大きな流れを的確に把握するための工夫が数多くなされており、そのために、まず「歴史スキル・アップ」という欄を設けて、その中で時代、年代の読み取り方とか、歴史の流れ、考察の仕方、まとめと発表法等を熟知させてから題材へ入っていく工夫がなされております。そうしたことは、生徒にとって、歴史を学びやすくさせ、親しみを持って学ぶことができるようになっているとともに、次々と課題意識を抱かせ、その解決への興味・関心・意欲を喚起させるようになっていっていると思います。歴史分野というのは、我が国の歴史の理解と愛情、あるいは民主的な社会の形成者としての知識や態度を育成するということから、様々な課題を抱き、それを解決していく上で、多面的、多角的な気づきというものを求められます。教科書全体に地理的分野同様のキャラクターが散りばめられ、その都度コメントがされておりますが、そういったことによって新たな気づきが出てくることにもなりますし、また「深めよう」という欄には、大いにそれらが参考になるような取り扱いがなされており、より質の高い高度な課題設定や解決方法を駆使できるような工夫もなされているのではないかと思います。さらに各章・各節において、発展的学習への導きとして、「歴史にアクセス」という欄が用意されて、歴史をより多面的、多角的に捉えさせようとする配慮もあり、それは結果的に歴史に親しませ、また歴史学習への深まりを持たせるようになっていっていると考えられます。最後に、地域の歴史にも焦点を合わせた題材、例えば「北海道開拓史」「屯田兵」「アイヌの生活と文化」などを取り上げ、自分たちの地域の歴史への愛情や課題意識を惹起させるのにふさわしい内容構成になっていると思います、東京書籍を推薦する理由といたします。以上です。

田中委員長
門屋 委員

ありがとうございます。続きまして、門屋委員お願いします。

私も8社の教科書はかなりのボリュームがあって、正直なところ大変でした。同じ項目について何箇所か比較をしましたが、微妙に表現が違うということがあって、歴史の教科書はなかなか難しいというのが実感です。結果的には東京書籍を私も推薦したいと思いません。東京書籍は前回7社中、総ページが一番少なかった教科書でした。今回は1割近く、かなり増やしたように思います。そういう意味では、情報提供量も増えていたと思いますし、伊藤委員もお話されていたアイヌの歴史を含む北海道の歴史を取り上げていたことも、

自分たちに結び付けて考えられるということで、この教科書を選びました。「歴史学習の初めに」で、記憶学習にはいけないこと、過去からの人々の生き方を学んで、築いてきた人権や平和を継承して、これからの社会を作っていくために学ぶのだということを強調して始めています。地理や公民との関係や地図帳の活用などを示していたことは、歴史の教科書だけではなく、他の関連を明らかにしているという点でも良かったと思います。最後の方に、持続可能な社会を実現することが求められ、公民分野で深く学んでいきましょうと締めくくっていて、歴史を学ぶことの意義と歴史教科書の立場のようなものを明らかにして、他の教科との関連の中で、もっと深めてほしいというメッセージは良いと思いました。第1章で歴史の捉え方として、キャラクターを使って考察し、学ぶポイントや課題の整理をして、まとめと発表などをさせながら、生徒自身が主体的、問答的に取り組めるような工夫がなされていたというように思います。「歴史にアクセス」「歴史スキル・アップ」のコーナーが設けられ、深められるようになっていて、一口知識のように、囲いの説明文が興味・関心を助長させるよう工夫されていたと思います。「トライ」というコーナーでは調べることを促していて、「私たち歴史探検隊」での自ら調べることの提案は、学びを深めることに役立ち、教科書で学んだ時代と自分たちの暮らしはどのように違っているのか、または同じなのか、と調べさせていたのも大変良かったと思います。章末には「深めよう」として、数ページを割いていたことが良く、その一つに北海道とアイヌ民族の歴史が詳しく取り上げられていたことも、帯広の子どもに学んで欲しいことでしたから良かったと思います。領土問題や震災関連としての原発問題とエネルギー問題、少子高齢化社会、社会のグローバル化、温暖化など、現在進行形の社会事情まで取り上げられていたのも良かったと思います。こういった理由で東京書籍を推薦します。

田中委員長
藤澤 委員

ありがとうございます。それでは、藤澤委員お願いします。

私も歴史教科書を見せていただいて、門屋委員がおっしゃったように大変でした。最終的には東京書籍を推薦したいと思います。巻頭に、「歴史学習の初めに」として、過去の様々な出来事は今の生活と無関係ではないという東日本大震災を例に挙げまして説明しています。歴史は昔のことを記憶していく学習ではなく、過去の人々の生き方に関わっていく学習であるということ、最終的にどう生きてくか、日本や世界をどうしていけばいいかという歴史の学習の方向性を示してくれているのが大変良いと思いました。学習を進めていく上で、「歴史スキル・アップ」「歴史にアクセス」「調査の達人」などのコーナーを單元ごとに設けていまして、暗記科目と思われがちな歴史の学習を基礎的な知識・技能及び幅広い知識の習得ができる

ように工夫されていること、「鉛筆マーク」では具体的な作業や活動が示され、自主的学習が大変しやすくなっているように思われます。学び方ももちろんですが、歴史に興味を持てるような様々な工夫がされているのも特徴だと思いました。北海道の歴史で欠かせないアイヌの人々の文化や歴史に関する記載も多く、郷土の歴史への関心や学習意欲も増すのではないかと思います。また、地理的分野の関連性を図りながら学習できるように配慮されているのも良いと思いました。以上の理由から東京書籍を推薦いたします。

田中委員長
八鍬教育長

ありがとうございます。それでは八鍬教育長お願いします。

私も東京書籍を推薦したいと思います。出版会社も大変多くて、それぞれ写真やデータ、史実について、とても豊富に掲載していると思いながら見ておりました。その中で東京書籍ですけども、最初に「歴史学習の初めに」とあり、その中で歴史は昔のことを記憶していく学習ではなく、過去の人々との生き方と関わりを学習して、次は私たちがそれを受け継いで社会を築いていく番であり、体験や学習をこれからの社会に生かして、次世代へ伝えることの大切さが述べられておりました。歴史を学ぶことの意義を明確に伝えていると感じ取りました。そして「歴史の流れをとらえよう」では、調べ学習のテーマの決め方、あるいは考察やまとめ方のポイントが大変分かりやすく、日本の歴史の大きな流れの中でしっかりと捉えられるように工夫されていると思いました。また、「歴史にアクセス」のコーナーでは、時代背景をしっかりと捉えながら、歴史的な人物や出来事を掘り下げながら、生徒に分かりやすく丁寧に掲載していて、興味・関心を高める工夫がなされていると思いました。「この時代の特色をとらえよう」では、時代を大きく動かした出来事や当時の新聞、あるいは比較表などを用いた作業、あるいは時代の特色について、生徒が自ら発表する活動などが取り上げられていて、生徒の考える力や自分の考えを分かりやすく伝えるなど、生徒が主体的に学習に取り組むことができるような工夫がなされていたと思います。それから、歴史的な事件や経過などが、地理的な観点と密接に位置付けられているとともに、掲載されている写真、あるいは統計も時代を考察するのにふさわしく、生徒に大変分かりやすいと思いました。以上のことから、東京書籍を推薦いたします。

田中委員長

ありがとうございます。最後に私ですが、私も東京書籍を推薦させていただきたいと思います。多くの出版社を読ませていただいて、なかなか大変だったと思いました。他の方からもお話しがあったように、暗記型の教科ではなくて、過去を踏まえてこれからどうやって、これからの社会を作っていくかということ、他の教科書も打ち出しているんですが、その意図が明確であるという意味で東京書籍が一番良かったのではないのかと判断させていただきました。皆さ

んと同じようなことの繰り返しになりますが、「歴史スキル・アップ」とか「私たち歴史探検隊」の発展学習的なコラムも非常に充実していると思いましたが、「深めよう」もそういうような観点があったと思います。それから、章ごとに学習確認をしていたというのも特色としてありましたし、最終的にディスカッションへの道筋を作っているということもあったと思いましたが。それから、北海道、特に十勝・帯広についてもありまして、アイヌ民族に対する言及も詳細にしっかりと歴史・文化について語られているということを感じました。以上の観点で東京書籍が、生徒たちの自学自習を促すという意味でも最適ではないかと判断させていただいたということになります。以上でございます。

他になれば、以上で発言は終了いたします。

田中委員長

皆様のご意見を総合いたしますと、歴史の採択すべき教科書は、東京書籍というご意見で全員一致しております。

東京書籍を採択することにご異議ありませんか。

各委員

異議なし。

田中委員長

ご異議がないようですので、採択理由を確認するため休憩いたします。

(休憩)

再開いたします。

ここでお諮りいたします。

歴史の採択につきましては、『歴史を学ぶことの意義が明確に示されており、人間の生き方や現在進行している諸問題、日本・世界が進むべき方向性などについて、産業や経済、生活、環境などの観点から整理され、生徒が体験したことや学習したことを、これからの社会に生かしていけるようになっていること。資料や新聞記事などが多角的な視点でバランスよく掲載されており、単なる暗記ではなく、調べ作業を通して、生徒が時代の流れや特色を客観的に、分かりやすく学ぶことができるようになっていること。地理的分野・公民的分野との関連を図りながら学習を進めることができるように配慮されており、身近な北海道の歴史やアイヌの人々の文化などに関する記述も多く、郷土の歴史への興味関心と学習意欲を喚起する内容となっていること。「歴史スキル・アップ」や「歴史にアクセス」「私たち歴史探検隊」等のコーナーにより、歴史についての学び方や調べ方など、学習に必要な基礎的技能を身に付けることができるように配慮されているとともに、「深めよう」により、それぞれの事象を深く学習したり追求したりできるようになっていること。キャラクターなどが要所所で登場し、生徒の気づきを促すとともに、歴史上の出来事を新聞や比較表などを用いて作業したり、発表したりする活動が効果的に取り上げられており、生徒が主体的に考え、

学習に取り組むことができるよう工夫されていること。』などの点から、発行者、東京書籍の教科書を採択することにご異議ありませんか。

各 委 員
田中委員長

異議なし。

ご異議なしと認め、そのように決定いたしました。

ここで休憩といたします。

再開は5分後といたします。

(休憩)

再開いたします。

次に公民の審議を行います。公民につきましては、7種から採択を行います。

それでは各委員からご発言願います。伊藤委員からお願いします。

伊藤 委員

東京書籍を推薦いたします。公民的分野においては、国家社会の形成者としての必要な公民的資質の基礎を学ぶということが目標になっており、その中で教科書の冒頭に、公民を学ぶにあたって、公民は地理分野と歴史分野との関連を持ちながら進めるべきであるとのアドバイス文章があり、非常に視点が明確に出されていると思います。各章・各節に共通する要素をいかにつかみ取り、どのような方法で解決へと結びつけられるかについて、第3節だったと思いますけれど、マンガを取り上げ、あるトラブルを例として、非常に初歩的で分かりやすい例があげられております。そこでは、解決への糸口や道筋がよくわかるようになっており、生徒たちの今後の実生活において降りかかる諸課題や問題を解いていくヒントになるのではないかと思います。地理的分野、歴史的分野と同様に、キャラクターにおけるヒントが非常に的確になされており、学習意欲を持たせるのに非常に効果的だと思います。最後になりますが、各節において、「公民にアクセス」「公民にチャレンジ」「深めよう」といったコーナーで、身近な課題、例えばアイヌ民族とか、東日本大震災等々のことについて、細かく取り上げられ、それを詳細な解説でもって解決への手ほどきがされています。それに加えて「トライ」というところでは、新たな発展的課題と課題追求といったこともしやすくなっており、家庭学習においても家族ぐるみで考え合ったり、解決策を巡らせたりすることに非常に効果的ではないかと思ひ、東京書籍を推薦する理由といたします。以上です。

田中委員長
門屋 委員

ありがとうございます。門屋委員お願いします。

私も結論から言えば、東京書籍を選択しました。東京書籍の公民とはという説明が、私だけを中心にして社会を見たり、考えるのではなくて、公から広く見つめて、問題解決をしながら、将来に生きる人々の幸福を実現するということから始めていまして、生徒たちの身近な自分たちの問題として、自分たちの幸せを学ぶ学問という

ことから始めているのが良かったと思います。情報と内容が大変豊富な教科だと思います。言葉も普段の生活では使わないことも大変多くて、生徒にとっては意味を理解することに苦勞するに違いないと思いました。それをいかに分かりやすく身近なこととして捉えられるようにする配慮がなされていたように思います。その1つとして、言葉の意味や説明が同じページにたくさん書かれていたのが良かったと思います。伊藤委員も話されていました「公民にアクセス」「公民にチャレンジ」のコーナーが設けられていて、深めること、あるいは調査研究を促していることが良かったですし、章末などの区切りのところに「深めよう」というものを設けて、課題の解決と生徒たちの現実、具体的な取り組みを紹介していました。加えて、生徒自身の生活課題を話題として取り組ませようということが意図されていたように思います。例えば、どこにでもある学校のトラブルを事例としてあげていたり、模擬裁判とか、市長選に立候補するという模擬体験を提案したり、色々工夫されていて、理解の促進を図ろうとしていたと思います。政治・経済・法律等々、考え方によって違いが出てくる社会の現実を特定の思想や立場だけで学ぶことは、大変危険だと思いますから、どう教えるか、どのように学ぶことが良いのか、この教科の難しさを感じていますがけれども、東京書籍には、全体的に特定の価値観、あるいは思想に偏らず、客観的に静態的に記述していることが多いように感じました。注意や関心を向けられると思ったのは、アニマル大陸の危機を救おうとしたページで、入国間問題として考えることを促して、解決策や対応策を模擬的に取り組めるようになっていたことも、それぞれの立場に立って広く考える機会を与えて、自分の考えをまとめて主張する体験というのが大変重要なことと感じました。最後にレポート作成を学べるようになっていたことも良かったと思います。こういった理由で東京書籍を推薦します。

田中委員長
藤澤 委員

ありがとうございます。藤澤委員お願いします。

私も東京書籍を推薦いたします。巻頭に「公民学習の初めに」として、広く社会を見つめ、社会的な問題を解決しながら、現在、そして将来を生きる世代の両方の幸福を実現するという記載がありまして、社会との関わりを広い視野から考えさせ、公民を学習する目的をしっかりと伝えていると思います。公民学習に必要な知識である現代社会と私たちの生活、個人の尊重と日本国憲法、現代の民主政治と社会、私たちの暮らしと経済、地球社会と私たちを各章で学習し、終章で「より良い社会を目指して」と締めくくっています。いろいろな問題、例えば貧困問題を考え、解決を導くために、「公民にチャレンジ」「公民にアクセス」などの様々な工夫が見られました。「確認」コーナーでは、学習した内容を確認し定着させ、さらに発

展させていき、自主的に学習しやすくなっていると思います。巻末資料も「現代社会のあゆみ」「世界の現状」とともに、日本国憲法、子どもの権利条約、教育基本法などの法令集が多数掲載されており、学習の参考にしやすい配慮がされていると思いました。社会に参画することを通して、人間としてのあり方や生き方を広い視野に立って現代の社会について主体的に考察させ、理解を深めさせようというのが伝わってくる教科書だと思いました。日本だけでなく、世界のような人たちと、習慣や文化、思想が違って、戦争のない平和を目指すのが、地球の人間の使命だという感じがします。地理・歴史ともリンクする教科なので、東京書籍が良いのではないかと思います。以上です。

田中委員長
八鍬教育長

ありがとうございます。八鍬教育長お願いします。

私も結論としては、東京書籍を推薦したいと思います。公民というのは、とても難しいと思っていますけれど、人と人、尊厳、人権、民主主義、経済活動、国際協力、平和、本当にいろいろなことを多角的に学ぶ大切な教科だと思っていますので、そういった意味で、広い視野から生徒が学習を深めることができるような観点が必要ではないかと思って見ていました。教科書の中には、「公民にチャレンジ」「公民にアクセス」のコーナーを随所に設けて、生徒自ら調べたり、あるいは関連する内容などが大変分かりやすく工夫されていると思いました。それから、教科書ではいろいろなマークが使われているのですが、巻頭で非常に丁寧な説明がされていると思いました。巻末には、「年表 現代社会の歩み」、「世界地図 世界の現状」などを掲載していて、歴史あるいは地理との関係からも学習の関連を図る工夫がなされていると思います。それから、「この章の学習を確認しよう」というコーナーが各章に設けられていて、自ら学んだことを振り返ったり、自ら確かめたり、再確認する工夫が多く見られ、学んだことをしっかり定着させていくという意味では大変役立つと思いました。全体的に時代背景、世界的な視野を含めた写真、図表などが大変分かりやすく取り上げられていると思いました。以上のことから、東京書籍を推薦します。

田中委員長

ありがとうございます。最後に私ですが、私も東京書籍を推薦したいと思います。理由は今、皆さま方がお話になられたこととほとんど同じですが、公民という分野は、子どもたちの生活や未来に直接関わってくる勉強ということで、難しいことは難しいのですけれども、その中で子どもたちは何を学んでいくのかということですので。つまり、自分たちの未来の社会をどう築いていくのかということに直接思いを馳せるような科目でなければいけないし、それに一番相応しい教科書は何かと思いながら眺めていたわけです。その中で、私は東京書籍と教育出版で少し悩んだわけですが、最終的

には東京書籍としたいと思います。皆さんがおっしゃったとおり、「公民にアクセス」「深めよう」とか、私が感心したのは、門屋委員が言われていたと思いますが、レポート作成の方法がかなり詳細に作られていることでした。それから、公民は確か3年生で学習するのでしょうか、小学校で学んできたこととの繋がりのようなものを明示していたということ、それから、巻末に「参考法令集」が出ていて、これはどの教科書にも出ていますが、用語解説がより詳しくあったという感じを印象として持ちました。これも門屋委員が言われていましたけれど、言葉の意味がかなり難しくなってくる中で、総じて、東京書籍が一番丁寧に作られていたのではないかという印象を持ちました。以上のことから東京書籍を推薦させていただいたということになります。

田中委員長

他になれば、以上で発言は終了いたします。

皆さんのご意見を総合いたしますと、公民の採択すべき教科書は、東京書籍というご意見で全員一致しております。

東京書籍を採択することにご異議ありませんか。

各 委 員

異議なし

田中委員長

ご異議がないようですので、採択理由を確認するため休憩いたします。

(休憩)

再開いたします。

ここでお諮りいたします。

「公民」の採択につきましては、『人間尊重の考えを基本に捉え、個人と社会との関わりを意識させ、広い視野から理解させることを通して、多面的・多角的に学ぶ工夫がなされていること。東日本大震災、アイヌ民族の問題など、現代社会の多岐にわたる課題を取り上げ、よりよい地球社会、共生社会についてしっかりと考えさせることで、生徒の社会参画の基礎を築くことができるようになっていること。「公民にチャレンジ」「公民にアクセス」「トライ」「深めよう」等で、振り返りや繰り返しのコーナーを設けることにより、生徒が自らの学習の定着度合いを確かめながら、主体的に学習できるとともに、身近な問題やトラブルをマンガで取り上げることにより、興味関心をもちながら習熟を図ることができるようになっていること。終章において、レポート作成を学べるようになっており、「テーマの設定」や「資料の収集と読み取り」「考察」を通して、現代社会の課題を見つけ、自らの考えを広げられるような工夫がされていること。巻末の「現代社会の歩み」や「世界の現状」等を活用し、地理的分野、歴史的分野との関連を図った学習ができるとともに、参考法令の用語の解説が丁寧になされ、生徒が主体的に学習に取り組むことができるように工夫されていること。』などの点から、発行者、

東京書籍の教科書を採択することにご異議ありませんか。

各 委 員
田中委員長

異議なし。

ご異議なしと認め、そのように決定いたしました。

次に地図の審議を行います。地図につきましては、2種から採択を行います。

伊藤 委員

それでは各委員からご発言願います。伊藤委員からお願いします。

帝国書院を推薦いたします。ただ、個人的には、どちらの教科書も机の上に置いて学ぶにはいいと思いました。それくらい似通っており、非常に素晴らしい出来具合だったと思いますが、次の3点のことから帝国書院としました。1つは、社会科における3分野である地理・歴史・公民の関連を捉えながら地図を見るということが求められておりますので、まず、その地図の基礎・基本中である記号・凡例に関しては、非常にこと細かく見逃すことのないように、あるいは理解しやすいような形で出されており、さらには、地図の効用ということで様々なキャラクターやコラムなどを適宜に配置し、適切なコメントがされていることから、生徒は3分野を常に意識しながら地図を見て検索、あるいは学習していくことに繋がるような工夫がされていると思います。2つ目は、地図を参考にしながら、社会科全般を主体的に学習できるようにするために、地図の要所要所に「地図をみる目」というコーナーを設けて、より正確な読み取りを促したり、また各種課題の気づきや着眼点に広がりや深まりを持たせるようになっており、「やってみよう」という欄でそれを深めていると捉えております。3つ目は、帝国書院は東京書籍よりも巻末の資料が非常に豊富で、特に世界の国別統計においては、違いを示す項目が非常に多くて、国情等を詳細に知ることができ、あるいは比較・検討することもできるような内容になっていると思われまます。さらには地図帳の中には、衛星画像の採用により最新最先端技術への憧れを持たせたり、あるいは身近なアイス語の地名などの地域紹介もあったりして、生徒も地図を通して我が郷土、あるいは日本、世界を探るにふさわしい構成になっていると思います。補足になりますけども、色彩の面で帝国書院の方が見やすく、長時間見ても疲れないのではないかという気がいたしまして、帝国書院を推薦したいと思います。以上です。

田中委員長
門屋 委員

ありがとうございます。門屋委員お願いします。

伊藤委員と重なるところがたくさんあります。結論から言うと、帝国書院を選択しました。これは全体に言えることですが、最初の世界地図の色使いがはっきりしています。ここに出ていた世界時計が25個、もう一方の教科書の9個とは相当に違いがあって、細かく配慮されていること、帝国書院の配慮の仕方が全体に表されていると思いました。一貫してキャラクターを登場させて、調べて

みようという投げかけが随所にあリまして、疑問や様々な提案をしているわけですが、これは生徒を引き込ませる工夫として、なかなか良いと思います。地図を示すだけではなくて、諸地域の関連した資料などを掲載しているというのも良かったと思います。資料がいろいろありましたが、帯広・十勝ということ意識すると、一方は帯広に空路がなかったり、帝国書院の方は高速道路が帯広までつながっているなど、細かな違いがあるなと思いました。地図の全体構成と資料についてはほぼ同じで、表現の仕方が違う程度でしたけれども、東京書籍は見開きで北海道のテーマ資料があって、十勝の畑作の写真が出ていたり、北海道の農業生産高が十勝で目立って多いことが分かるのは、実は東京書籍の方が良かったのですけれども、それ以外のことや全体を考えると帝国書院が良いと思いました。地図を活用した楽しさが感じられる必要がありますので、その意味でも工夫されていると感じました。将来も何かの時に使いたい、と思えるような地図帳になっていたと思います。もう1点付け加えると、巻末の統計資料は新しいものが良いわけですが、東京書籍の一部は1年遅れでしたし、帝国書院の方は都道府県の区分では、北海道を14圏域に分けるように、親切に書かれていたと思います。以上のような理由で帝国書院を選びました。

田中委員長
藤澤 委員

ありがとうございます。続きまして、藤澤委員お願いします。

私も帝国書院を推薦します。地図・写真が美しく、鮮明ですし、地形の様子立体感も見られ、図も大きくてわかりやすかったです。地図帳全体は、「世界」「日本」「資料図」と分かりやすく構成されておりまして、学習しやすいように、世界は州ごと、日本は地方ごとにまとまりを設けて構成されていました。巻頭に「この地図帳の使い方」があり、オーストラリアを例に挙げわかりやすい説明がしてあることや、歴史的分野や公民的分野でも活用できるよう主な歴史・地名や国際機関への参加国を地図帳に示されていることが、地理・歴史・公民的分野を含めての学習を導いていると思いました。また、「地図をみる目」「やってみよう」というコーナーが設けられていまして、地図活用のスキルが身に付き、地図の着眼点が理解できるように工夫されていると思いました。巻末の統計資料もデータが豊富で、分かりやすく色分けされていて、大変見やすく編集されていると思いました。地図帳は使用の頻度が多い教科書ですので、帝国書院は折込みページも含めて、丈夫な製本になっていることも良かったと思いました。以上です。

田中委員長
八鍬教育長

ありがとうございます。八鍬教育長お願いします。

私も最終的には、帝国書院を推薦したいと思います。地図は他の教科との関連も非常に広いと思っています。そういった意味では、平面の地図から様々な要素を多角的に捉えて理解する力が養われて

いくことが必要な教科だと思っています。その意味では、生徒が学習しやすいような配慮が求められており、全体として帝国書院については、地名にふりがなを付すなどの工夫、あるいは縮尺を統一した地図、資料図を使用して、文字も大変鮮明で見やすく、全体的に配慮がなされていると思いました。それと地図帳のはじめには、記号の凡例、地図帳の構成、地域特色を捉えるポイントなどを丁寧に掲載していました。巻末には、日本の自然環境、災害と防災をはじめ、世界と日本との視点から、自然、エネルギー、農業、通信などの特徴について、世界との結び付きに着目して、日本の特徴を学ぶコーナーが丁寧に取り上げられていて、地図から日本、世界のつながりへと広げて学ぶことにつながり、生徒の学習意欲を高めることができると思いました。以上です。

田中委員長

ありがとうございます。最後に私ですけども、私も帝国書院を推薦したいと思えます。今、皆さん方がおっしゃられたこととほとんど同じことですので、1点だけ申し上げると、見やすさに関して、2つ並べてずっと見たのですけども、帝国書院の方が疲れないということが自分の感覚としてはっきりありました。それも大きな理由です。先ほどどなたかがおっしゃっていましたが、時間的に長く使い、見るという意味で言えば、やはり疲れないことは、かなり大きな意味があると思いました。それから、東京書籍も改めて見て、すごくしっかりした地図帳を地図帳作っているという思いはすごくありましたので、この2社で本当に悩んだところでした。それから、先ほど藤澤委員が言われていた、製本について頑丈というのを聞いていて、改めてなるほどと思いつながら聞いていたところでございます。以上で私も帝国書院を推したいと思えます。

田中委員長

他になければ、以上で発言は終了いたします。

皆さんのご意見を総合いたしますと、地図の採択すべき教科書は、帝国書院というご意見で全員一致しております。

帝国書院を採択することにご異議ありませんか。

各 委 員

異議なし。

田中委員長

ご異議がないようですので、採択理由を確認するため休憩いたします。

(休憩)

再開いたします。

ここでお諮りいたします。

「地図」の採択につきましては、『丈夫な製本になっており、地図や写真、資料、文字などが見やすく鮮明であり、地図帳全体が「世界」「日本」「資料図」と分かりやすく構成され、地名のふりがな表記等、使いやすいよう配慮されていること。統計資料には比較検討しやすい項目、内容、最新のデータも豊富で、わかりやすく色分け

されている。また、地理的分野はもとより、歴史的分野や公民的分野との関連を図った活用に配慮されていること。キャラクターを活用した「地図をみる目」「やってみよう」などのコラムの欄を設け、生徒が地図活用のスキルを身に付けたり、新たな課題への意欲を喚起させる配慮がされていること。地図帳のはじめに記号凡例や地図帳の構成、地域特色を捉えるポイントなどがわかりやすく掲載されていること。巻末において、資源、エネルギー、農業、通信など、世界との結びつきに着目して日本の特徴を学ぶコーナーがあり、地図から日本と世界とのつながりを学ぶことができる工夫がされていること。』などの点から、発行者、帝国書院の教科書を採択することにご異議ありませんか。

各 委 員
田中委員長

異議なし。

ご異議なしと認め、そのように決定いたしました。

次に数学の審議を行います。数学につきましては、7種から採択を行います。

それでは各委員からご発言願います。伊藤委員お願いします。

伊藤 委員

東京書籍を推薦いたします。数学では原理原則への理解や数学的表現・処理、数理的な表現、それらが最終的には実生活で活用されるということが求められますので、そういった観点を押さえて、さらに数学の楽しさや効用をまず感得させられなければならないと思っております。その点では、まず基礎的・基本的事項へのスパイラル学習に重きを置いた内容構成をしておられ、また発展的学習に繋がる内容も適宜排列され、したがって個人差に応じた学習を可能にし、数学への楽しさや効用、親しみを感じさせるような配慮がなされていると思っております。近年、市内の中学校においても、採用されております少人数学習、習熟度別学習など、そうした方式に耐え得る内容になっているのではないかと思います。数学は生徒個々に応じた学習や方法が適度に伝わることを望ましいと思っておりますが、そういった点でも様々な手立てが取り上げられております。例えば、「基本の問題」「章の問題A・B」「学び合い」「補充の問題」などのコーナーが数多く設けられ、個々への配慮がなされているように思います。また、「数学マイノート」というものを設定し、題材ごとに解決したことをまとめさせたり、あるいは「学び合い」のコーナーにおいて相互検証するような形式を採り、数理的表現への喚起や共同学習への良さ、あるいは効力を感じとらせるような配慮もなされていると思っております。最後に、学んだことを実生活に活用するということが非常に重要なことではありますが、その手立てとして「活用の問題」「社会とつながる」「教科とつながる」「数学の歴史」「数学のまど」のコーナーを設け、様々な実生活で遭遇する数学的場面での対応が容易になるような配慮もなされておりますし、一方「発展」ということで

学習指導要領に示されていない内容にも触れ、より高度な学習内容とその解決への意欲喚起に役立つような配慮もなされており、生徒の今後の高等教育への橋渡しに大いに活用できるような構成、あるいは内容の取り上げになっていると思います。その点から東京書籍を推薦いたします。

田中委員長
門屋 委員

ありがとうございます。続きまして門屋委員お願いいたします。

私も結論は東京書籍なのですが、実は前回、学校図書を選んでいたこともあって、数学の教科書の選び方を今回はちょっと考えてしまいました。数学は得手不得手が分かれる傾向があるという教科だと思います。数学は論理的な思考とか、順序立てて考える力とか、推考力とか、いろいろ育むのに必要な教科だと思いますから、好き嫌いに分かれてほしくないのも、興味を持てる内容が多くあることがとてもいい、あるいは導入部が優しいことなどが大切だと考えておきまして、身近な題材、あるいは暮らしとの関係をどのように取り入れているかということを見たわけですが、導入部についてはそれぞれ工夫をしていました。例えば、数研出版は10ページにわたって、算数と数学の違いについて、算数から数学に変わるわけですから、これを実はいろいろと理解させる内容となっていたと思います。例えば、大日本図書の巻末に「マスフル」の内容が大変豊富だったということから言うと、部分的な魅力に注目すると迷うばかりで、ただ、全体のバランスの良さから東京書籍と考えたわけですが、東京書籍の特徴を拾ってみますと、3年間の総ページ数が学校図書よりも34ページも少なく、練習問題が最も多かった大日本図書の7割弱ということなのですが、しかし、これらの数のほか、北海道に関係する箇所、吹き出しやヒントなどの説明文が最も多かったことから、身近に感じられるように構成されていたと思います。章末にAとBの問題を、節ごとに基本の問題を、ところどころに「学び合い」を設けて、身近な話題について数学を使って取り組めるようにしてあり、カレンダーの和の性質や数の性質などを分かりやすく取り上げていて良かったと思います。「考える力をのばす」として、「数学マイノート」を見開きで紹介し、生徒自身のノートの取り方、まとめ方を示しているのは参考になると思いました。「数学のまど」では、発展的な学習機会を与えて、生活と数学の関係、理解を深められるようになっていました。巻末には「社会とつながる」「数学をひろげる」「数学パズル」「数学の歴史」など、興味を持たせる内容が3学年共通していた工夫が数学の実用性を学ぶことができると思いました。数学への関心を深め、自ら学ぶ意欲を引き出せる教科書となっていたのは東京書籍だったと思いますので、東京書籍を推薦いたします。

田中委員長

ありがとうございます。それでは藤澤委員お願いいたします。

藤澤 委員

私も東京書籍を推薦いたします。巻頭では、自分で考え友だちの考えも知って、話し合い、学習を深める「学び合い」のページ、自分や友達の考えや学んだことがわかるノート作成の手引きをしてくれる「数学マイノート」と、生徒が自主的に学習に取り組む工夫がされていると思いました。小学校の算数から中学校の数学へ変わり、難しくなるという思いが先に立ち、数学嫌いが多くなりそうですが、巻末では数学の本来の数量や図形などの学習だけでなく、「社会とつながる」コーナーで「渋滞をなくすには?」「データでスポーツを科学する」など生活や社会との関連を図り、数学の有用性も教えていました。「数学の歴史」「数学パズル」も数学への興味を誘うものとして有用性を感じました。同じく巻末で「ふりかえり」として、1年生は算数、2年生・3年生も前年の復習問題が掲載されています。復習問題をやることにより前年の学習が定着され、着実な積み重ねによりわかる数学となり、数学の楽しさを導けるのではないかと思います。以上の理由で東京書籍を推薦いたします。

田中委員長
八鍬教育長

ありがとうございます。それでは八鍬教育長お願いします。

私も結論としては、東京書籍を推薦したいと思います。数学は中学になった途端に得意でなくなるといった子どもたちが増えると思っておりますけれども、日常生活の中で考える、あるいは判断するという力を育てるところでは、日常生活と切り離せない科目だと思っております。東京書籍の中で、内容の構成について、各章の冒頭に日常での体験や自然事象等を取り上げていて、興味を持って学習に入っていけるよう工夫がされています。それから、各学年においても基礎学習から系統的、発展的に学習できるように工夫がなされていて、個々の生徒の習熟度、あるいは個人差に対応した学びへの工夫がされていると思いました。それから、日常生活との関係ということでは、車の渋滞など、日常生活に大変身近なテーマを取り上げながら、数学的な視点から「社会とつながる」「教科とつながる」「数学の歴史」などのコーナーを取り上げながら、興味関心を図る工夫が見られました。それから、「ふりかえりのリンク」「まちがちなおし」などの欄を設けて、例題を多く設定していて、誤答、間違った回答について考えさせたりするなど、より確かな理解へと結びつくような配慮がなされていました。全体的に色使い、文字の大きさなど、視覚的にも大変見やすい工夫がなされていると思いました。以上です。

田中委員長

ありがとうございます。最後に私ですけれども、これもかなり実は悩んだ教科だったのですが、最終的に東京書籍と数研出版で少し考えました。結論を申し上げますと、東京書籍でございます。以下、委員の皆さんの話とほとんど重なってはいるのですが、繰り返して申し上げますと、章の問題をA・Bに分けているとか、あるい

は「数学マイノート」が非常に良くできていること、あるいは巻末の付録が非常に興味関心そそるような形になっていることなど、いくつかあります。一番決め手になるのは、今お話にもありましたけれども、数学嫌いが多くなってくるということがあるので、それをどうにかして少なくしていってもらいたいということ。その意味で、結局はわからなくなつたところで止まって、もう一回振り返りができるかどうかということに尽きる気がしますので、その辺のサポートが多分東京書籍が一番良くできているという印象を持ちました。その観点から繰り返しになりますけれども、東京書籍がいいと思ったということになります。それから、印象論ですけども、東京書籍が教科書の余白が一番ある感じが何となくいたしました。きちっと面積を計ったわけではありませんけれど、私の印象では教科書の中にどんどんメモなり、何なり書き込んでいくイメージがありましたので、余白はあった方がいいという印象を持ちました。以上で東京書籍を私も推薦したいと思います。

田中委員長

他になれば、以上で発言は終了いたします。

皆様のご意見を総合いたしますと、数学の採択すべき教科書は、東京書籍というご意見で全員一致しております。

東京書籍を採択することにご異議ありませんか。

各委員

異議なし

田中委員長

ご異議がないようですので、採択理由を確認するため休憩いたします。

(休憩)

再開いたします。

ここでお諮りいたします。

「数学」の採択につきましては、『スパイラル学習に重きを置き、「学び合い」のページ、「基本の問題」「章の問題A・B」「ふりかえり」「補充の問題」などの欄を設け、少人数学習や生徒の習熟度などに対応した学びへの工夫がなされていること。「数学マイノート」では、学習の心がけやノートの取り方やまとめ方の留意点を示すなど、生徒が自主的に学習に取り組めるようになっていること。学んだことを実生活に活用する手立てとして、日常生活と数学的場面との関連を意識できる「社会とつながる」「教科とつながる」「数学のまど」などにより、生徒が生活や社会との関連を図りながら学習できるよう工夫されていること。「ふりかえりへのリンク」「まちがい例」などの欄を設けて例題や練習問題を多く取り上げ、生徒のより確かな理解へと結びつく配慮がされていること。巻末のページでは、興味をもって楽しく読める「活用の問題」「数学の歴史」「数学パズル」などを掲載し、生徒が数学の実用性、有用性を学び、数学への興味関心を高めることができるよう工夫されていること。』などの点から、

発行者、東京書籍の教科書を採択することにご異議ありませんか。

各 委 員
田中委員長

異議なし。

ご異議なしと認め、そのように決定いたしました。

次に理科の審議を行います。理科につきましては、5種から採択を行います。

それでは各委員からご発言願います。伊藤委員お願いします。

伊藤 委員

啓林館を推薦いたします。理科では、科学的な探求や見方、考え方を養うというところに目的があるわけですが、すべての学習、題材において、当然ながら観察と実験を主たる学習方法として、それぞれの基礎的・基本的事項の徹底指導と各種冒頭に観察実験に関する「サイエンス資料」といったコーナーを置いて、それぞれの手解きごと細かく記載されております。題材ごとに目的や方法、結果、考察、手順が示されており、親しみを持ちながら安心して、かつ比較対照可能な学習ができるようになっていないかと思えます。さらに生徒が事象に関しての探究心を向上させるためのさらなる配慮としては、キャラクターによるコラムが程良く配置され、より分かりやすく解説や手解きがなされており、考察の段階での相互交流がとてもしやすくなっているのではないかと思います。その際、観察、実験ごとに得た結果や考察を「マイノート」あるいは「わたしのレポート」といったコーナーにおいて記載し、振り返り、あるいは見直しをしながら学習に繋げていくようになっていて、非常に効果的でないかと思えますし、さらには共同学習に対しても考察を深める役割を、それぞれのノートは果たしていると思えます。常に観察、結果等について、ノートをとることやレポートをまとめ上げるということは、いわゆる自分の考えを練り上げる作業がそこにはあり、したがって、より高度な思考力や豊かな表現力、確かな判断力につながっていくということから、それぞれのノートやレポートに関しては、大いに活用できるようになっていると思えます。最後に、自然や事物・事象・現象により親しみ、発展的探求へとつなげる工夫もなされており、特に巻末においては「きみも科学者」や「サイエンストラベラー」欄がそれにあたり、身近な事象・事物・現象への興味関心を抱かせるとともに、身近な現象として多くの生徒が記憶や体験している自然災害に関することへの学びも用意されており、実生活においても家族で考えあったり、方策を見つけ出したりするようなことで非常に参考になることから啓林館を推薦いたします。以上です。

田中委員長
門屋 委員

ありがとうございます。門屋委員お願いします。

私も検討した結果、啓林館を選びました。色使いとか写真や図の鮮明さなどが印象深かったと思います。1年生の最初のページに「いろいろな疑問をとき明かす」と書かれていて、理科がまさに日常生

活の様々な疑問に答えてくれる教科であることは、始まりとしては入りやすいと感じました。最初の方に、教科書の使い方が示されているわけですが、これも全体構成との学びの見通しがつけられていると思いました。植物の生命から学び始めますけれども、帯広でも実物が見られる植物を教材としていることから、身近に感じられ、関心を向けやすいと感じました。学年ごとに別冊「マイノート」があり、自ら取り組める課題が示されていて使いやすく、深めること、興味関心を高めることに役立ち、学んだことを整理するのにも役立っていたように思います。3年間の総ページ数は一番多くて、情報量としても十分であったことと、探求方法や実験器具の使い方、ものづくりの取り上げ項目は、ずば抜けて他の教科書より多いと思います。事故防止への配慮もされていたと思います。学習意欲を高めしてくれるコラムの箇所や北海道との関わりのいずれの項目も他の教科書より多かったことから、学びの機会を適切に提供できる教科書と考えました。各章ごとに「学習のまとめ」があり、「ひろがる世界」を設けて学んだ内容が深められ、広がる知識を提供し、興味感心を引き起こす工夫がなされていました。また「科学偉人伝」のコーナーを設けて、多くの科学者を紹介し、頻回に考えてみようという疑問を投げかけて興味を助長し、自然と関心を深め取り組める工夫には感心しました。単なる問題というよりは、主体的に取り組むことを自然と促す作り方が良かったです。各学年ごとに「サイエンス資料」とした見開きで詳しい資料を提供したり、「きみも科学者」を設けて、同じ学年の一人が取り組んだ研究内容を提示して、このような取り組みを君もやってみないかという興味をそそるようになっていたのも、理科という日常生活の疑問解決の教科として大変良いと思いました。以上のことから啓林館を推薦します。

田中委員長
藤澤 委員

ありがとうございます。続きまして藤澤委員お願いいたします。私も啓林館を推薦いたします。「この教科書で学習するみなさんへ・保護者の方へ」で、1年生では理科で必要な知識や実験器具の使い方など基礎・基本をしっかりと、2年生では天気の変化の予測や発電の仕組みなど、理科が役立っていることを実感させ、3年生では地球温暖化の環境問題を考えるなど、自然科学の素晴らしさや環境保全も考える構成になっています。理科は好き嫌いの差がある教科だと思いますが、このように理科への興味を持たせる工夫がなされ、生徒はもちろん保護者も一緒に理科に親しみ楽しんでほしいということが伝わってきました。写真が鮮明で、データも豊富で排列・配置も系統的で大変分かりやすい印象を持ちました。学習を進めていく上でも、様々な工夫がされている点として、单元ごとに「ふり返し」コーナーがあり、学んだことを確認し、目的・方法・結果・考察で、確実に学習の定着を図っていました。また、観察や実験を

安全に行うための注意マークが付けられているのが、危険の認識、防止のために大変良いと思いました。科学の話題や興味深い活動を扱ったコーナーの「部活ラボ」「科学偉人伝」「先人の知恵袋」「はたらく人に聞いてみよう！」は、ブレイクタイムとして実際の生活と科学のつながりを示して、生徒が理科への興味を持てる工夫がされていました。別冊「マイノート」は基本の定着から応用、活用まで主体的に学習できることから、学力向上につながり有用性があると思いました。以上のことから啓林館を推薦いたします。

田中委員長
八鍬教育長

ありがとうございます。それでは八鍬教育長お願いします。

結論として、私も啓林館を推薦したいと思います。教育出版も大変写真が豊富で、少し悩んだところはありましたが、総合的に判断して啓林館を推薦したいと思います。まず、各学年において、単元やポイントとなる図や写真が大変大きく扱われているとともに、観察することの大切さ、あるいは探究活動の大切さなどを理解させる工夫がなされていると思います。それから、各学年において、興味関心を喚起させる教材を様々取り上げておきまして、知識、能力、興味関心、分析などの力を高める工夫が多く取り上げられていると思いました。それから、全体を通して青色系のラインとか背景色が採用されているように視覚的に感じました。青色系というのは大変落ち着いて、集中力が向上するのではないかと思います。また、全体的に写真や文字が大変鮮明で見やすいと思いました。「サイエンス資料」のコーナーには、多角的に充実して掲載されていて、実験での安全性、あるいは正確性など、きちんと学べるような配慮が随所になされていると思います。それから、巻末の「マイノート」では、学んだことのまとめ、あるいは応用問題など、発展的に学習できるような工夫がなされていると思いました。以上のことから啓林館を推薦します。

田中委員長

ありがとうございます。最後は私ですが、私も啓林館を推薦したいと思います。理由については、重複する部分もありますが、いくつかお話をしたいと思います。巻末の「マイノート」は、やはり皆さんがおっしゃられているように、予習復習ですとか、様々な自己学習に有効だろうと思いました。それから、これまでも出ておりましたが、他の出版社もしっかりした写真を掲載されておりますけれども、今回も改めて啓林館の写真が素晴らしいと思いました。特に写真は一瞬をきれいに捉えた写真が多く、しかも大きなサイズで掲載されているのは特徴的だろうと思いました。それから、イラストも非常に上手に描かれているのではないかという印象を持ちました。「はたらく人に聞いてみよう！」という項目は、なかなか特徴的で読んでいて面白かったので、キャリア教育や職業教育とも結び付けながら指導することもできるのではと思いました。それから、先程

もお話がありました。が、「科学偉人伝」といった伝記もので、興味関心を引くような形になっているということ、巻末の資料が非常に豊富であったと思えました。全体的のバランスや総合的に見ると、やはり啓林館が少し抜き出ているという印象を持ったということになります。以上でございます。

田中委員長

他になれば、以上で発言は終了いたします。

皆さんのご意見を総合いたしますと、理科の採択すべき教科書は、新興出版社啓林館というご意見で全員一致しております。

新興出版社啓林館を採択することにご異議ありませんか。

各 委 員

異議なし

田中委員長

ご異議がないようですので、採択理由を確認するため休憩いたします。

(休憩)

再開いたします。

ここでお諮りいたします。

「理科」の採択につきましては、『キャラクターによるコラム「きみも科学者」「部活ラボ」「先人の知恵袋」「サイエンストラベラー」「はたらく人に聞いてみよう!」など資料が豊富で、日常生活と科学のつながりや疑問解決を示し、生徒の興味関心を抱かせるよう工夫されていること。写真や文字が鮮明で、データなどの排列、配置が系統的で分かりやすく、北海道に関する内容も多く取り上げられており、生徒が知的好奇心や探求心をもって学習できるようになっていること。観察や実験を安全に行うための注意マークが記載され、事故防止の配慮がされているとともに、單元ごとの「ふり返し」のコーナーなどにより、方法、結果、考察についてわかりやすくまとめ、目的意識をもって観察・実験ができるようになっていること。別冊「マイノート」は、基本の定着から応用まで、学んだことを振り返りながら予習復習でも活用できるとともに、応用問題による発展的な学習を充実させることで、学力向上につながる工夫がされていること。観察・実験に関する「サイエンス資料」が記載され、実験での安全性や正確性などを学べるよう配慮されていること。』などの点から、発行者、新興出版社啓林館の教科書を採択することにご異議ありませんか。

各 委 員

異議なし。

田中委員長

ご異議なしと認め、そのように決定いたしました。

次に音楽（一般）及び音楽（器楽合奏）の審議を一括して行います。音楽につきましては、各種目とも2種から採択を行います。

それでは各委員からご発言願います。伊藤委員お願いします。

伊藤 委員

一般・器楽ともに教育出版を推薦いたします。一般・器楽ともに音楽を第一義的に楽しみ、親しみ、それぞれの美しさを味わわせる

ということができるよう配慮がまず必要なのですが、そういった点から見ますと、一般・器楽いずれも馴染み深い楽曲が多く取り上げられているのではないかと思います。そのことにより、音楽を身近に感じ、そして、音楽学習への意欲的、積極的な取り組みにつながると思っております。それから、表現活動と鑑賞活動との関連性、あるいは有機的な繋がりを示している共通事項というものが明確に出されていて、それぞれの題材において、何を学び、どう表現したらいいのか、あるいは創作したらいいのかといったことが非常にわかりやすく説明されているように思われます。そのことによって、生徒相互で個性を大事にしながら、表現あるいは鑑賞活動ができやすくなり、音楽を通して様々な言語活動につながっていくような排列・内容・構成になっていると思われます。最後に、一般・器楽ともに日本の楽器や楽曲に対して、多くのページを使い、その歴史やそれらの特色を紹介し、日本の伝統的音楽文化により多く触れさせ、雅楽への興味関心を増幅させることにつながっていると思っております。加えて、発展学習に関する楽曲や器楽類を使い、「Let's Play!」や「Let's Try!」というコーナーにおいて、それらが発揮できるように工夫されていることから、教育出版を推薦いたします。以上です。

田中委員長
門屋 委員

ありがとうございます。次に門屋委員お願いします。

私も教育出版を推薦します。1年生のときに歌唱から入っているわけですがけれども、姿勢や息のコントロールの仕方とか、発音の仕方などの基本を図示していて、その後の歌唱に大変役立つというところから入っていました。曲目ごとに小さな説明があったり、作曲家・作詞家の紹介をしていたり、「日本の民謡と芸能」では、見開きの日本地図に各地の民謡と暮らしの場面との関係を分かりやすく表示していたことは、興味関心を強め広げることにもできるように配慮されていました。2年、3年時にも、「交響曲」「くらしとともにあるさまざまな音楽」を見開きで説明し、鮮やかで多彩な写真で注目できるようになっていると思っております。巻末には必ず同じ内容の楽典を見開きとし、3年間繰り返していたことは、楽典理解と知識形成に役立つと考えます。教科書の途中でも楽典の理解を促すために巻末見開きは使いやすく、すぐに開くことができ繰り返し確認するためにも良かったです。鑑賞としての音楽についても多彩なジャンルを紹介し、ミュージカルやオペラやオーケストラ等々、視覚的に理解しやすく工夫され、歌舞伎についても体験を促すとか、和楽器の詳しい紹介なども興味をそそるものとしてありました。日本だけでなく、世界中の祭りや音楽、あるいは暮らしと音楽についても紹介していて、曲目選定なども、暮らしの中に音楽を取り入れて楽しめるように工夫されていたと思っております。器楽については、最初

はリコーダーから始まっているわけですが、リコーダー演奏の楽譜の横に必ず笛の絵が描かれていて、生徒が実際に演奏するときの参考にできるというように思います。サミングについても詳しく説明していたことやギターの弾き方の説明も分かりやすく、和楽器の演奏方法もそれぞれ詳しく説明されていたように思います。「Let's Try!」も演奏してみることができるように19曲も紹介していたり、加えて「名曲旋律集」として、楽器それぞれが生かされる曲の一部を紹介していたのも良かったと思います。最後に、2人の和楽器奏者から、中学生の皆さんへのメッセージが気に入りました。箏奏者からは、技術だけではなくて、礼儀、服装、感謝と謙虚な心であるとか、笛の奏者からは、笛は気持ちが表れる、励ましてくれたり慰めてくれたりするということが印象に残りました。以上のことから教育出版を推薦します。

ありがとうございます。それでは藤澤委員お願いします。

田中委員長
藤澤 委員

私も音楽は、一般・器楽ともに教育出版を推薦いたします。まず、音楽（一般）は、教科書の題目が「音楽のおくりもの」となっていて、音楽の世界に誘う優しい言葉となっているのが、大変良いという印象を受けました。音楽は様々な楽しみ、癒し、生きる力をもたらしてくれるものだと思います。目次が3つの構成で、「音楽の要素を捉えながら」「さまざまな音楽文化ー日本とアジア、世界ー」「歌い合わせ、聴き深める喜び」となっていて、これに基づき、何に注目して歌うのか、鑑賞するのかなどの目的がページごとに書かれていて、表現・鑑賞のポイントが掴め、音楽の効果的な学習を展開できるのではないかと思います。歌うための準備として、姿勢、息のコントロール、母音の発音の仕方が大変分かりやすく、歌うという基本的なことの説明がしっかりなされていると感じました。学習の発展コーナーの「『音』ってなあに？」の掲載は、音という現象がどういうものかと理科的なようでしたが、音を知ることは音楽を知ることの意味合いもありますので大変興味深かったです。日本の伝統音楽の雅楽、歌舞伎、文楽、能など、世界各国のオペラやバレエなど、日本だけではなく世界の音楽文化の紹介により、音楽の素晴らしさを伝えてくれています。「日本と西洋の音楽の歩み」の年表の掲載は、日本と西洋の音楽の歴史を対比できて、大変良かったと思います。「ポピュラー音楽図鑑」では、ブルース、ジャズ、フォークなどの代表とする歌手が紹介されていて、鑑賞曲としても生徒の興味を引くものだと思います。もちろん日本の民謡のことも掲載されていますので、日本、世界と幅広く色々なジャンルが学べる教科書となっていると思います。「私たちのくらしと音楽」の関係としましては、音楽を通じた教育活動、音楽療法が音楽が実際に暮らしに役立っていること、「音楽著作権とインターネットにつ

いて」では、注意しなければならない点が挙げられ、どちらも暮らしとの関わり合いとして良いものだと思います。以上のことから、音楽（一般）は教育出版を推薦しました。器楽の方ですが、各楽器、特に和楽器の演奏の仕方が丁寧に説明されまして、適切な練習曲で上達を目指せるのが大変良いと思いました。一番身近な楽器リコーダーですが、巻末にリコーダーの指運びの表と指の使い方が掲載されていることと、演奏の仕方の説明が左手だけを使った演奏後に右手を加えるなど、上達させる工夫がされていると思いました。「Let's Play!」や「Let's Try!」では、易しい楽曲から難しい楽曲を掲載するなど、生徒の実態に合った楽曲で演奏が上達する工夫がされていると思いました。「名曲旋律集」の掲載は、リコーダー、箏などで演奏できるように工夫され、生徒の興味関心が高まると思いました。以上のことから教育出版を推薦いたします。

田中委員長
八鍬教育長

ありがとうございます。それでは八鍬教育長お願いいたします。

私は音楽の一般・器楽合奏いずれも教育出版を推薦したいと思います。音楽はいろいろ学ぶという能力とか、技術的なことも大事だとは思いますが、人生の中で音楽に触れるということは、心の中のオアシスにつながり、目に見えないけれども、とても大切な世界だと思っています。教育出版については、時代をつないで古くから親しまれている曲はもとより、生徒に親しみやすい新しい楽曲をはじめ、外国の名曲など幅広く曲が取り入れられていて、興味関心を持って学ぶことができるように工夫されていると思いました。皆さんもお話されたとおり、日本古来の雅楽、あるいは歌舞伎の紹介、交響曲の多角的な紹介など、多様な分野を鑑賞、そして体験することができて、生徒にとって興味関心が持てるような細やかな工夫がされていると思いました。2年、3年の下では、「日本と西洋の音楽の歩み」というコーナーがあって、縄文時代から平成に至るまでの絵画や写真など掲載しながら、生徒に音楽の歴史の意義を分かりやすく伝えるという工夫もありました。器楽については、全体的に全ての楽器について、指の位置、運び、姿勢など、写真の資料が大変多くて、生徒にわかりやすく関心を高める工夫がされていると思いました。配色、レイアウト、文字など、ユニバーサルデザインの配慮がなされていました。「Let's Play!」や「Let's Try!」などのコーナーを設けて、「もみじ」といった平易な楽曲から組曲からの抜粋曲など、難易度の高い楽曲なども幅広く掲載し、生徒の実態に応じた楽曲教材の充実が図られていると思います。以上です。

田中委員長

ありがとうございます。最後は私ですが、私も一般・器楽とも教育出版を推薦したいと思います。理由については重複するかもしれませんが、何点か申し上げたいと思います。音楽は授業に入る最初

のところで、レベル差が結構あったり、興味関心の度合いが違うといった科目ではないかと思えます。そういう意味では、皆さんもおっしゃられましたが、専門的である以上に親しみやすい音楽や楽曲が多くあった方がいいと思えます。その意味では、音楽（一般）では、教育出版は、身近な楽曲、様々なジャンルがあるというお話もございましたけれども、その点で生徒に親しみを感じさせるのではないかと思えました。その観点で教育出版の方がより身近さを感じさせてくれると思った次第です。器楽の方に関しましては、門屋委員が言われていたとおりなのですけれども、演奏の具体的な方法ですとか、作法というか技術に関しまして、教育出版の方が少し丁寧な印象を持ちました。写真等、初心者に分かりやすい対応だと思って見ておりました。以上で音楽（一般）並びに音楽（器楽合奏）に関しましては、教育出版を推薦したいと考えております。以上です。

田中委員長

他になければ、以上で発言は終了いたします。

皆さんのご意見を総合いたしますと、音楽（一般）及び音楽（器楽合奏）の採択すべき教科書は、いずれも教育出版というご意見で全員一致しております。

教育出版を採択することにご異議ありませんか。

各 委 員

異議なし

田中委員長

ご異議がないようですので、採択理由を確認するため休憩いたします。

（休憩）

再開いたします。

ここでお諮りいたします。

はじめに「音楽（一般）」の採択につきましては、『生徒が主体的に音楽を楽しみ、親しみ、美しさを味わうことができるよう、新しいもの、外国の名曲など豊富なジャンルからバランス良く掲載され、興味関心を持たせる工夫がされていること。表現活動、鑑賞活動それぞれにおいて、学習の目標やポイント、共通事項が示されているとともに、相互を関連させながら効果的に学習を進められるよう配慮されていること。日本の伝統音楽である雅楽、歌舞伎、文楽、能、ミュージカル、バレエ、オペラなど世界の音楽文化が豊富に掲載されており、祭りやくらしと音楽のつながりがわかりやすく掲載されていること。「日本と西洋の音楽の歩み」では、それぞれを対比しやすく、共通点や違いについてわかりやすく掲載されていること。歌唱のページにおいて姿勢、息のコントロール、母音の発音の仕方などの基本が示されており、後の歌唱にも役立つような配慮がされていること。』などの点から、発行者、教育出版の教科書を採択することにご異議ありませんか。

各 委 員

異議なし。

田中委員長

ご異議なしと認め、そのように決定いたしました。

続きまして「音楽（器楽合奏）」の採択につきましては、『リコーダーについては楽譜の横や巻末にも、指の使い方等の説明が掲載され、確認しながら演奏できる配慮がされていること。和楽器の演奏の仕方や練習曲が丁寧な説明とわかりやすい表現で掲載されていること。「Let's Play!」「Let's Try!」では、易しい楽曲から難易度の高いものまで扱っており、生徒の実態に合わせて取り組むことができるよう配慮されており、また「名曲旋律集」では、リコーダー、箏などを用いて幅広い曲選びができるように工夫されていること。写真資料が豊富であること、配色や文字、レイアウトにはユニバーサルデザインによる配慮がされていること。巻末の「中学生のみなさんへ」では、技術だけでなく礼儀、服装、感謝と謙虚な心など、演奏には気持ちが表れることが掲載されていること。』などの点から、発行者、教育出版の教科書を採択することにご異議ありませんか。

各 委 員
田中委員長

異議なし。

ご異議なしと認め、そのように決定いたしました。

次に美術の審議を行います。美術につきましては、3種から採択を行います。

伊藤 委員

それでは各委員からご発言願います。伊藤委員からお願いします。

3社ともに素晴らしい写真印刷で甲乙つけ難い状況でありましたけれども、日本文教出版を推薦いたします。美術科では制作の喜びや感性を豊かにし、美術文化への理解と情操を養うことが目的であります。それを満たしているのが日本文教出版ではないかと思えます。特に他社より抜きん出る部分が多くありました。具体的には、A4ワイド版を採用しているということにより、掲載作品がより大きく、より多彩な作品を掲載していることにつながっております。そのことにより、生徒の皆さんに新鮮な感覚や好奇心を与えるとともに、より実感を持って鑑賞したり、創作への意欲喚起を促したりする効果を持っているのではないかと思います。さらに主体的に学ぶといった観点では、題材ごとに「学びのねらい」といったものを明確に示して、そこでの目標を見失うことなく表現活動、あるいは鑑賞活動に関して共通事項を正確に押さえながら、学ぶことができるようになっております。また、「POINT」というコーナーでは、新たな気付きへのヒントを与えたり、さらには作品ごとに作者の言葉を挿入し、生徒に制作意欲の喚起や主体的学習への手解きに役立つものと思えます。最後になりますが、一部和紙による印刷を施し、より本物に近づけた鑑賞ができるような工夫もあり、また、いくつかの作品では実物大作品を掲載し、そのことにより著名な作品への興味関心を高める効果につながっているのではないかと思いますし、

加えて和と洋の著名作家作品も数多く掲載され、美術文化への理解や関心を高めるような取り扱いもなされており、生徒個々あるいはグループとしての創作活動や表現活動に大いに役立つようになっていのではないかと思います、日本文教出版を推薦いたします。以上です。

田中委員長
門屋 委員

ありがとうございます。続きまして門屋委員お願いします。

私も日本文教出版を推薦します。他の教科書にも捨て難いところが多いありましたけれども、日本文教出版は大変優れた構成になっていたと思います。印刷技術が高いとも思いましたし、3年間通して表紙裏の見開きは見応えがあると思いました。1年生のところはゴッホから始まるわけですが、かなりインパクトがあるように思ったのと、前回も申し上げたのですけれども、最初に「図画工作から美術へ」という小学校から中学校に入ったことの意味、この美術で変わったことの説明、なおかつ美術というものを3年生の最後には、あなたの一生の友として、人間らしく自分らしく生きていくことをあなたの内側から支えてくれるはずだとして、一貫して美術に対するものの考え方が貫かれているという感じがしました。1年生では「出会いと広がり」をテーマとして、次に「学びの深まり」「美の探求」として、美術に取り組む視点と目的を明確にしていました。一貫して美術が特別ではない身近なものであること、描けるとか、表現できるとか、創れるといったことだけではなくて、鑑賞して感じる、想像できること、意味を考えることなど、生徒が日常的に多く自然にできることを基調としているのが良かったと思います。ややもすると、美術は絵が上手に描ける人や物を創れる人のもの、のようになってしまうことが多く見られることから、それだけではなく、下手な人にも美術に関心が持てることが重要だと思います。身近な題材や素材を使った有名な作品と生徒たちの作品をテーマに沿って並べていて、美術が身近であること、日々の出会い、思い描くことなど、それぞれの感性に沿って絵や彫刻やデザインなどにより表現するものがあるということを学べるようになっていたと思いますし、作品から自由な物語を想像する楽しさ、直感的で衝撃的というべきか分からないままにも感じることの体験など、あらゆる美術作品は人によって感じ方が自由であっていいということを強調していたように感じ、これも良かったと思います。2、3年の上では、和紙を使った両開きの富嶽三十六景の原寸大の2枚は圧巻でしたし、これがどのように作られるかということが、後ろの方で刷り方を詳しく載せていたのもとても学びやすかったと思います。下巻でも両開きで千手観音坐像なども圧巻でした。仏像の表情の多彩さ、実際に私は見たことがないのですけれども、音まで聞こえてくるような、その場の雰囲気のようなものを感じられて良かったです。

定番となっているゲルニカの作品も良かったのですが、これは少年の写真と破壊されたゲルニカの町の写真が入っていて、大きさであるとか現実がわかるというような配慮がなされていたと思います。美術史についても、日本と世界を対比するだけではなくて、西洋への影響と西洋からの影響、これを解説していたことが良かったと思います、日本文教出版を推薦します。

田中委員長
藤澤 委員

ありがとうございます。藤澤委員お願いいたします。

私も日本文教出版を推薦いたします。美術1では、「出会いと広がり」として、入口に小中連携のページが設けられていまして、小学校の図画工作から中学校の美術への広がりを感じられ、工夫がされていると思いました。美術2・3下、出口の「あなたへ～中学校美術からの巣立ち～」としては、中学校美術の学習が終わっても、将来の生活に美術に関わり続けていくことを示唆している文章には感動いたしました。版が大きいことによりまして、各ページに掲載されています図版も大きく、大変見やすい構成になっていると感じました。また、各学年に両観音開きのページが設けられ、実作品を大画面で鑑賞できるようになっていて、特に美術2・3上の両観音開きのページには、和紙が使用されている原寸大の浮世絵が素晴らしかったと思います。美術1「出会いと広がり」では見つめ直す、美術2・3上「学びの深まり」では知る・学ぶ、美術2・3下「美の探求」では深く見つめるという学年ごとにテーマに沿った構成になっていまして、各章に「学びのねらい」も書かれていて、学習を進めやすい工夫がされていると思いました。著名な作品と生徒の作品が並べて掲載されているのが、生徒の創作や意欲を高める工夫がされていると思いました。巻末の表現や鑑賞、色彩の手引きとなる資料も充実しているように思いました。以上のことから日本文教出版を推薦いたします。

田中委員長
八鍬教育長

ありがとうございます。八鍬教育長お願いします。

私も結論としては、日本文教出版を推薦したいと思います。音楽と同じなのですが、芸術性の教科については、自分の人生をより深く意義あるものに、人生を味わい深くするのに役立つのではないかと考えています。日本文教出版はサイズがA4ワイド版となって掲載されていますので、作品が大変大きくて、また、たくさん作品が取り上げられていて、生徒の興味関心を高めていると思いました。全体を通して、文字の判読も大変しやすく、色彩や配色、全体のレイアウトが非常に配慮されていると感じました。皆さんおっしゃられていることですが、2・3年上において、版画、墨絵などで和紙を使用する配慮があるなど、本物により近い感触を得ながら鑑賞ができる工夫がなされていて、興味関心を高める効果があると思います。また、日本の伝統文化を伝える和服、あるいは

和菓子、日本庭園など、豊かな四季の変化を色彩良く掲載しているコーナーもあり、日本人の生活に息づいている伝統美術など、生徒の感性を豊かに育むことができるような工夫も見受けられました。以上です。

田中委員長

ありがとうございます。最後は私ですが、日本文教出版を推薦したいと思います。理由はほとんど言われてしまったことばかりなのですが、確認のため申し上げます。個人的には、いわゆる有名な作品、美術史に残るような作品を数多く見るべきだろうと、見られるものは見るべきだろうと思います。実際になかなか見たくても見られないのが現実ですので、こういう教科書なりで、年少期に見てもらおうのいいと思っておりますので、その部分で日本文教出版はそういう要求に応えてくれる教科書だったのではないかという印象を持ちました。3冊構成でA4ワイド版、おそらく学年ごとに使うことになると思いますが、その部分でも生徒にとっては新鮮な思いで見ることができるし、より実物に近い形で見ることもできるという印象も持ちました。2・3年の上では、和紙を使った富嶽三十六景とか、そういった類のものが出ていること、2・3年の下でも三十三間堂の仏像がものすごい大きなインパクトで迫って掲載されていました。それから、今回美術の教科書を眺めていて感じたのは、私との対話ということで、描いている自分、表現する主体をどう捉えるかということを経験で捉えてくる、もしくは美術表現で捉えてくるといった様々な表現形態を意識させるような仕組みが明らかに意識的に日本文教出版ではとられていると思いました。門屋委員が言われていたように、ゲルニカなどでも、どう解釈、どう説明できるのか、言葉で説明するのか、感性で説明するのかといったところをイメージ化しているところが素晴らしいと思って見ておりました。以上の観点から、日本文教出版がやはりいいと思って推薦をさせていただきたいと思います。

田中委員長

他になければ、以上で発言は終了いたします。

皆様のご意見を総合いたしますと、美術の採択すべき教科書は、日本文教出版というご意見で全員一致しております。

日本文教出版を採択することにご異議ありませんか。

各 委 員

異議なし

田中委員長

ご異議がないようですので、採択理由を確認するため休憩いたします。

(休憩)

再開いたします。

ここでお諮りいたします。

「美術」の採択につきましては、『中学1年生の「図画工作、そして…美術へ」』において、小中のつながりや美術の身近さを感じ、中

学3年生の「あなたへ～中学校美術からの巣立ち～」において、美術の位置づけを明確にしていること。学年1冊の3冊構成、A4ワイド版のため、多彩な作品が数多く掲載され、生徒が実感を持って創作活動や鑑賞をすることにより、意欲喚起できるよう工夫されていること。各学年において「見つめ直す」「知る・学ぶ」「深く見つめる」などのテーマに沿った学習目標が示されるとともに、巻末の表現や鑑賞の資料、色彩の手引き、全体のレイアウトなどが充実しており、生徒が主体的に学ぶことができるよう配慮されていること。鑑賞教材においては実物大の作品や和紙を使用した浮世絵などにより、生徒がより本物に近いイメージを広げられるよう工夫されていること。和服や和菓子、日本庭園の色彩の美しさなど日本の伝統美術などにより、生徒の感性を豊かにし、美術文化への理解を高めるよう配慮がされていること。』などの点から、発行者、日本文教出版の教科書を採択することにご異議ありませんか。

各 委 員
田中委員長

異議なし。

ご異議なしと認め、そのように決定いたしました。

次に保健体育の審議を行います。保健体育につきましては、4種から採択を行います。

伊藤 委員

それでは各委員からご発言願います。伊藤委員からお願いします。

学研教育みらいを推薦いたします。保健体育科では、心と体を一体として捉えながら、生涯にわたって運動に親しんだり、あるいは健康保全維持を図るということが目的になっております。学研教育みらいの教科書によりますと、それぞれの題材ごとに明確な学習の目標とそれに係わるキーワードがまとめられて掲載されていることが非常に特徴的ではないかと思えます。また、各章ごとに発展題材「探究しようよ!」「カウンセリングルーム」「エクササイズ」「活用しよう」といったコーナーを設けて、多角的・多面的に自らの心と体を見つめ直しながら、改善していこうという意識を持たせる内容・排列になっているのではないかと思えます。それから、どの会社も取り上げられておりますけれども、生徒にとり喫緊の課題として取り上げられている内容として、生活習慣病、喫煙、飲酒、薬物乱用、ストレスといったことについて、非常に詳細な資料とともに解説、さらには考えさせるという配慮もされて、非常に緊張感を持った学習ができるようになっております。加えて交通事故に関しては、とかく中学生の自転車の乗り方に問題があることが全国的に言われておりますけれども、そこに着目し、自転車の乗り方や事故事例などを詳しく取り上げ、警告しているあたりは、6月1日から自転車に関する法律も制定されていることから、時宜を得た効果的な内容の取り上げ方になっているのではないかと思えます。体育面では武道・ダンスの必修化に加えて、多くの競技への興味関心や態度、

実践力を養う意味から、それらの技法、あるいはそこで発生し得る危険、そういった安全面での諸注意事項が詳細に掲載されておりまして、生涯にわたって個人として、またグループとして、さらには日常的には家族として、各種運動を楽しみ親しむことのできるような配慮もなされておりまして、最後になりますけれども、保健体育両面において、各題材ごとに関わりの深い著名な人物の紹介「ひと」というコーナーを設け、偉大な業績や実績に着目させて、生徒それぞれの実生活の中でそういった方々の生き様を参考にし、より豊かで、高度な考え方や技能、態度を学び取ることができるような配慮もなされていることから、学研教育みらいを推薦いたします。

田中委員長
門屋 委員

ありがとうございます。門屋委員お願いします。

私は迷いに迷った末に、大日本図書を選びました。それぞれの会社の構成が保健体育は少し特徴を持たせていたというように思いました。選んだ理由は、スポーツの後に健康を支える食事を見開きでわかりやすく示して、3年間で学ぶべき体育と保健の全体を示していた構成がいいと思いました。保健も体育も明るく豊かな生活を目標として、夢の実現、自己実現へ向かうということを教科の立ち位置というか、位置づけがきちっとしていて、生き生きと幸せに生きるということが保健体育の学ぶ目的であるということを確認にしていたように思います。スポーツの取り上げ方も、楽しさ、多様な関わり方、学び方などとまとめて入りやすく、取っ付きやすくなっていて、具体的に運動種目の学びの例示をわかりやすくしていましたし、運動が体と心に与える影響を示して、中学生が自分と結びつけて学べる工夫がなされていたように思います。発展的に章末の資料では、より専門的な解説も良かったですし、体育編末に「学習のまとめ」と「発展」のページを設け、話題を広げていました。保健についても、整理の仕方、表現、構図がすっきりとしていてわかりやすく感じました。心の成長、変化についても、学習課題を最初に示し、学びの目標を確認にしていたこと、章末資料の「トピックス+」の学習のまとめによって、学習できるところも良いと思いました。しっかりと喫煙、飲酒、薬物乱用など、興味関心の高まる年齢に合わせて、正しい予防的に役立つ情報提供と解説がなされていたように思います。保健編末の最近の重要な課題である「熱中症への対応と予防」などを取り上げていまして、最後に保健・体育を合わせて心理面、身体面、社会面と生活環境により、中学生らしく行動することによって自立していくこととなる、個々人のQOLの向上にもなるという締めくくりも良かったと思い、大日本図書を推薦いたします。

田中委員長
藤澤 委員

ありがとうございます。続きまして藤澤委員お願いします。

私は学研教育みらいを推薦します。保健分野と体育分野で構成さ

れ、保健体育として1冊となっているわけですが、保健が先のもの
と体育が先ものがあります。私としては、思春期で体も心も大きく
変化する時期に、心身の発達と心のことをしっかりと学び、自分
自身の心身の状態を知るためにも、先に保健分野がきているもの
の方が良いと思いました。保健分野・体育分野ともに各項目の初めに
学習の目標が提示され、キーワードも示されていることによって、
学習のねらいが明確になり、生徒の学習意欲を高めるような工夫が
されていると思いました。写真、イラスト、資料も充実していまし
て、大変見やすく、理解しやすいと感じました。今日、犯罪被害が
増加していますが、傷害の防止の単元に、犯罪被害の防止が新たに
加えられ、予測や回避方法が取り上げられていて、社会の取り組み
が掲載されていることや自然災害から身を守るために、自助、共助、
公助といったことが紹介されていることが、自分、家族、そして他
の人々を救えるという意識付けが大きくなると思いました。体育編
ではスポーツが健康に生活するための体力維持・向上ばかりではな
く、楽しさや喜び、必要性、生きがいのある豊かな人生を送るため
に必要な健やかな心身、豊かな交流、伸びやかな自己開発の機会を
提供する重要な文化的意義の説明など、生徒にスポーツの重要性を
理解させる工夫がされていると思いました。世界の人々をつながる
スポーツとして、国際大会としてのオリンピックの掲載がされてい
るのも良かったと思いました。以上の理由から学研教育みらいを推
薦いたします。

田中委員長
八鍬教育長

ありがとうございます。次に八鍬教育長お願いします。

私も保健体育については学研教育みらいを推薦したいと思
います。今、藤澤委員からもありましたが、中学生というのは、心と体のバ
ランスをとるのが大変難しい時期ではないかと思
います。だからこ
そ、保健体育を学ぶときに、自分事としてしっかりと学んで、自分
の中でしっかりと捉えていく、そういった配慮がなされている教科書が
望ましいのではないかと見ました。学研教育みらいの中でいくつか
良いと思ったところは、最初に、スポーツ界で活躍する人たちの紹
介、関連する書籍の紹介をするとともに、部活や勉強に忙しい中
学校生活と食事のあり方など、生徒が身近に自分のこととして、興味
関心を持ちながら学習に入れるような丁寧な配慮がありました。そ
れから、保健編の中では、「心身の発達と心の健康」「健康と環境」
「傷害の防止」「健康な生活と病気の予防」など、大変広範囲にわた
る学びの意義や目的をしっかりと捉え、見やすい写真やデータ、資
料など、多岐にわたって説明や解説がなされ、学習のねらいが明確
に示されていると思いました。体育編では、大変有名な現役の選手、
あるいは歴史を刻んできた著名人などを掲載しながら、スポーツの
多様性や文化としてのスポーツを取り上げながら、民族や障害の有

無、あるいは風土の違いを越えて、スポーツの意義、役割をしっかりと伝えていたと思います。以上です。

田中委員長

ありがとうございます。最後に私ですが、保健体育に関しては、相当迷ったところがあります。最終的に、私は学研教育みらいと東京書籍で悩んだのですけれども、結論を先に申し上げますと、学研教育みらいを推薦したいと思います。皆さんもおっしゃられたことなのですけれども、一応確認として申し上げます。章のまとめがしっかりしているということ。それから、学習の目標とキーワードの話もございましたけれども、それは章の頭できちんと設定されているということ。また、小学校で学んだことと、高校で学ぶべきことが明記されておりますので、中学校の段階で何を学ぶのかということが、しっかりされているということ。以上の観点で学研教育みらいがいいのではと思いました。学研教育みらいの場合、写真もきれいですし、触ったところ紙の質が少し違うような感じがするのですが、特に写真は、保健体育の場合は美しいだけではなくて、物事をリアルに映し出すということもあわせて、その意味でも写真はリアリティを持っている学研教育みらいが良いと思いました。ただ、かなり悩んで悩んで学研教育みらいにしたということでございます。以上、私は学研教育みらいを推薦したいと思います。

田中委員長

今、各委員のご発言を伺っておりますと、学研教育みらいがいいのではというご意見が多いと思いますけれども、門屋委員はいかがでしょう、今の発言の中で何かご意見はございますか。

門屋 委員

はい、私も迷いに迷ったことなので、学研教育みらいでよろしかろうと思います。

田中委員長

わかりました。ありがとうございます。そうしますと、今、門屋委員のお話をいただきましたので、皆さんのご意見を総合いたしますと、保健体育の採択すべき教科書は、学研教育みらいというご意見で全員一致しております。

学研教育みらいを採択することにご異議ありませんか。

各 委 員

異議なし

田中委員長

ご異議がないようですので、採択理由を確認するため休憩いたします。

(休憩)

再開いたします。

ここでお諮りいたします。

「保健体育」の採択につきましては、『保健編、体育編を通じて、心と体を一体としてとらえ、思春期を迎える生徒が生涯にわたって運動や自他の健康について関心を高め、大切にすることができるようになっていくこと。生活習慣病、薬物乱用、喫煙・飲酒、ストレス、自然災害や犯罪被害など、今日的課題を取り上げ、詳細な資料

を用いて、生徒がその解決と対策、予測と回避方法などについてよく理解できるようになっていること。保健・体育分野ともに、各項目のはじめに「学習の目標」と「キーワード」が明確に示されるとともに、イラストや資料、写真などが豊富で、視覚的に理解しやすくなっており、学習意欲をもって学ぶことができるように構成されていること。体育編では、著名な人物の紹介欄を掲載しながら、スポーツの多様性や文化としてのスポーツを取り上げ、民族や障害の有無、風土の違いを超えて、スポーツの意義・役割をしっかりと伝えていること。「中学校生活と食事」のあり方について掲載するなど、身近な題材を掲載することで、生徒が興味関心を持ちながら学習に取り組むことができるように配慮されていること。』などの点から、発行者、学研教育みらいの教科書を採択することにご異議ありませんか。

各 委 員
田中委員長

異議なし。

ご異議なしと認め、そのように決定いたしました。

次に技術・家庭（技術分野）及び技術・家庭（家庭分野）の審議を一括して行います。技術・家庭につきましては、各種目とも3種から採択を行います。

それでは各委員から技術分野、家庭分野の順にご発言願います。伊藤委員からお願いします。

伊藤 委員

技術分野、家庭分野ともに東京書籍を推薦いたします。技術分野から理由を述べさせていただきます。教科書の冒頭に技術分野でのガイダンスが掲載され、そこでの学習上の手引きが詳細に掲載され、学習への導入とし、次に、実習前、中、後での安全面に関しては、かなり詳細な注意事項を教師にも生徒にも確かな意識として抱かせるような配慮がなされていると思います。また、各分野での大まかなものづくりの手順を示し、常にその見通しと振り返りを重ねることを強調しつつ、より良い改善への道筋を求め、ものづくりの重要性を再認識させながら、創造的、発展的に学習ができるような取り扱いがなされていると思います。また、主体的な学習への手引きとして、各編に学習のめあてを明確にし、さらに振り返りを重視しております。例えば、小学校の既習学習事項や他教科との関連などを織り交ぜ、総合的、意欲的に学習が進められるように工夫されております。最後に、巻末に「防災手帳」を添付し、各編にて取り上げられている防災、減災知識や対策など、また自分や自分の周りの方々との考え方や方策など、手帳にコンパクトに記載できるようになっており、それらを日常的に、あるいは家族ぐるみで、かつ身近な感覚で自然災害や環境教育に容易に関心を持たせるような配慮がなされていると思います。次に、家庭分野であります。家庭分野というのは生活に必要な基礎的・基本的な知識・技能を学びながら生活

を工夫するということに目的があります。そこで、教科書冒頭に、技術分野と同様にガイダンスを設けて、生徒たちに学習の見通しを明確にさせております。その次に「自分の生活をチェックしよう」ということで、自らの実生活を振り返させながら課題や問題点を見つけ出し、その後「問題を解決する道筋」というコーナーにおいて、効果的、あるいはより実践的な進め方、学習ができるように工夫されていると思います。また、技術を要する題材では、「基礎技能」コーナーにおいて、その安全面や効率性を加味したサンプルを豊富に取り上げて、多角的・多面的な学習ができるようになっていると思います。さらには題材の随所に、「考えてみよう」「やってみよう」「まとめよう」「生活に生かそう」ということで、生活への工夫、あるいは生活の振り返りにつながる配慮もなされています。さらには、学習終了後、様々な討論形態、あるいは発表形態の例を取りあげて、家庭科分野での言語活動の活発化につながるようになっているように思われます。最後に、発展学習の1つの取り組みとして、「生活の課題と実践」と題して、自分や自分たち並びに家族や社会でのよりよい生活を営むための選択教材を掲載し、より質の高い発展学習の一助として活用できるようにもなっていると思います。以上のことから、技術分野、家庭分野ともに東京書籍を推薦する理由とします。以上です。

田中委員長
門屋 委員

ありがとうございます。門屋委員お願いします。

私も、技術、家庭ともに東京書籍を推薦いたします。今、伊藤委員が話しておりましたが、最初のガイダンスのところと最後の「防災手帳」のこと、それから家庭科の方でも、ガイダンスと最後の「生活の課題と実践」について、私も同じようなことを感じましたので、ここは省くことにします。AB版の大きさを活かした絵や図、写真などを取り入れておりました、視覚的に分かりやすく感じました。3社の比較でも、技術科に関しては、製作実験に関する箇所や自ら進んで調べられる箇所が一番多くあり、いずれも自分の生活を振り返られるように、自分の生活で使える技術の習得などに力を注がれていると感じました。身近な生活を支える生活環境に必要な技術から始まって、エネルギー資源全般とか、生物の育成と食資源理解とか、また、大変身近になったコンピュータなどの情報技術の理解と利用が展開されていて、すべてが生活を構成していることの学習として分かりやすくなっていたと思います。興味を持てるように、所々に資料のコーナーを設けて、現場の声としてのコラムのコーナーがあって、実在を知ったり、深められる工夫がされていました。家庭科もそうだったのですが、「調べてみよう」「考えてみよう」「話し合おう」「やってみよう」という、主体的に取り組める投げかけが頻繁に出てきたのも良かったと思います。家庭分野も、先程のところを

省くと、「どんな自分になりたいかな」「自分と家族との生活を見つめよう」として、自分と教科との距離を近くに感じられる工夫がなされていました。全体は、「食生活」「衣・住生活」「家族・地域生活」「消費生活と環境」の4編に構成されていたのも、全体的にわかりやすくなっていたと思います。家庭科では、食生活から入っていることも、関心の向けやすさから取り組まれていて、配慮されていると感じました。内容は食育の観点からも適していると思いました。生活の基本は健康、その基本は栄養、ここから生活のすべての活動が始まります。その後に、衣・住生活を取り上げておまして、家庭が基本であること、消費生活活動が生活を成立・維持すること、生活の諸条件と環境を構成するために存在する様々な基本技術を現代的に取り上げていたように思います。食生活の具体的な内容が豊富で、食品購入や食中毒のこと、「調理と食文化として」では、地域食材の利用と食文化としての日本各地の郷土料理を紹介しているのも良かったと思います。中学生としての成長と自立について取り上げて、家族関係の中での役割、理解まで取り上げられていました。成長は自分の振り返りとして、関係づけながら学べるようになっていくことも良かったと思います。消費生活では、現代社会の問題としても取り上げられていたこと、消費生活と環境問題、それが持続可能な社会との関係と将来生活のあるべき社会を目指すところまで学習できるようになっていたと思います。以上です。

ありがとうございます。続けて藤澤委員お願いします。

私も技術、家庭ともに東京書籍を推薦したいと思います。まず、技術の方は、巻頭の技術分野のガイダンス、これは伊藤委員や門屋委員と重複するものですが、巻頭の技術分野のガイダンスで、技術の授業で身につけたいことが明確に示されていて、「技術は夢をかなえるためにある」「技術は未来を創る」「社会の発展と人のつながり」など、生活の発展と技術の関わりが重視された内容は、技術を学ぶ上で生徒の学習意欲を高めるものだと思います。各編の初めに、「この編で学ぶこと」が設けてあり、小学校理科や他教科との関連も掲載され、また各章の初めは、「目標」が示され学習内容が明確になっていて、さらに各編に「学習のまとめ」のコーナーがあり、自己評価ができ、振り返って学習する、学習したことを確かめることができるなど、生徒が学習に取り組みやすいことと学習の定着化が図れる工夫がされていると思いました。実習編では、安全衛生マークが示されていて、実習の危険を回避したり、環境整備が大変有用だと思いました。「基礎技能」のページは、各作業が見やすくわかりやすいので、作業を進めていく上で生徒にとって大変参考になると思います。また、先ほど伊藤委員も門屋委員もおっしゃっていましたが、内容が充実していて、切り取って使用できる「防災

田中委員長
藤澤 委員

手帳」が掲載されていることも良かった点でした。巻末に、「技術分野の学習を将来に生かそう」と、「材料と加工に関する技術」「エネルギー変換に関する技術」「生物育成に関する技術」「情報に関する技術」4つの技術が人や社会、環境に関わっていることの掲載が、生徒たちに技術分野の興味を抱かせるものになっているように思いました。見やすく、読み間違えにくいユニバーサルデザインフォントを採用しているところも良かったと思います。次に家庭科の方も、同じく東京書籍を推薦します。教科書の表紙に「自立と共生を目指して」と書いてあるのが、まさしく家庭分野のテーマだと思いました。「問題を解決する道筋—家庭分野の学習の進め方—」として、家庭分野の学習で大切なことは、生活の中から課題を見つけ、実践を通して解決し、解決したことを生活に生かしていくこと、このようなプロセスを繰り返すことでよりよい生活をつくっていくこと、とあるのが、各編で実践され、学習しやすい構成になっていると思いました。食育としては、実際に自分たち中学生の食生活を考えてみよう、献立作りから肉や魚、野菜の調理をして、生活の中で食事が果たす役割を十分にわかりやすく説明していると思いました。実習例の「弁当作りに挑戦しよう」も、中学生から高校になるとお弁当を作る機会も増えていくことで、お弁当の関心を抱かせる良い試みだと思いました。衣生活では、トートバッグ、防災リュックなどの製作ばかりではなく、リサイクルなどの資源の有効利用の掲載もあり、環境に配慮した衣生活を送ることの大切さを教えていました。住生活では、災害に備えた住まい方について考えさせ、衣料品、持ち出し品の準備、実際に地震が起こった場合などで災害に備える心がけを示してあるのが良かったと思います。これからの家族関係が考えられるように、家庭や家族の機能を知り、中学生の立場からの家族との関わり、地域の関わり、幼児との触れ合いについてなど詳しく説明され、共生の道への導き方に工夫が見られると思いました。写真、イラストが見やすく、料理の写真が大変きれいだと思えました。以上です。

田中委員長
八鍬教育長

ありがとうございます。続きまして八鍬教育長お願いします。

私も技術分野、家庭分野、いずれにおいても東京書籍を推薦したいと思います。技術分野については、巻頭部分において「安全に実習するための3つの視点」を示して、事故のない実習・作業を喚起する配慮があるのと、ガイダンスでも技術学習が人類の夢、未来を創ることへつながっていることを伝えて、技術の活用の広がりをはっきりと伝えていたと思いました。それから、エネルギーや生物育成、情報など広範囲にわたる技術分野において、イノベーション、情報モラル、著作権など、今日的な観点からも理解を深める内容になっていて、全体を通して内容が一目で分かるような写真やデータ

が豊富にあると思いました。下段の部分には、「ひとくちQ&A」のコーナーがあるなど、興味関心を引くような工夫もありました。皆さんもおっしゃるとおり、巻末には「防災手帳」が加えられていて、技術分野の学習と防災・減災との関連を分かりやすくイラストや写真で伝えていて、日常生活と技術の関連を結びつけて活用できる工夫がされていました。次に、家庭分野については、技術と同様に全体的に大変身近な表示やマーク、あるいは写真やイラスト、データなどをわかりやすく豊富に取り上げていて、生徒が親しみを持ちながら学習できるような工夫がされていると思いました。また、サイズも大きく見やすくなったと思います。それから、調理や被服製作などについて、基礎・基本を「基礎技能」のページで分かりやすく系統立てて資料や写真を掲載していて、自主的に取り組むことができるような工夫がなされておりました。環境や消費者など今日的な課題に関する内容にも、マークやキャラクターがポイントを伝えていて、楽しく興味を持って学習ができるような工夫がなされていると思いました。以上のことから東京書籍を推薦します。

田中委員長

ありがとうございます。最後、私でございますが、私も技術分野、家庭分野いずれも東京書籍を推薦したいと思います。技術分野、家庭分野について、印象論の話をさせていただくと、技術分野ですけれども、3社それぞれ書いてあるのですけれども、将来、技術ということが夢をかなえていくのだというような流れが一番色濃く出ていたのが東京書籍だったというように思います。一方、職人の技術について、いま再評価されつつあると思いますけれども、そういうものに対しての目配りもしっかりしています。「技術の匠」というコラムがあって、そこでも明快にいろいろ出てきているあたりがしっかりしていると思いました。巻末の「防災手帳」に関しても、皆さんがおっしゃったとおりですし、色使いも非常にきれいだったという感じがいたしました。家庭分野ですけれども、技術分野と同じように東京書籍はガイダンスが非常に充実しているということ、それから自己実現、自己と家庭、地域との共生など、理解を深める工夫がされているということです。それから「プロに聞く！」というのは非常にいい企画だったのではないかと思います。何より一番感心し、良いなと思ったのは、どなたかがおっしゃっていましたが、食から始めているということです。特にこの十勝・帯広という地域においては、食生活、食育から始めるということは、かなり大きな意味を持っていると思いますので、地域性を考えても、この部分はありがたいなと思いました。また、どなたか最後で言われていたと思いますが、一番料理の写真がおいしく見えたのは東京書籍でした。これは見ていてもそうだと思うとおりました。そういった理由で、東京書籍が技術分野においても家庭分野においても、推薦できると思った

次第でございます。以上です。

田中委員長

他になければ、以上で発言は終了いたします。

皆様のご意見を総合いたしますと、技術・家庭（技術分野）及び技術・家庭（家庭分野）の採択すべき教科書は、いずれも東京書籍というご意見で全員一致しております。

東京書籍を採択することにご異議ありませんか。

各 委 員

異議なし

田中委員長

ご異議がないようですので、採択理由を確認するため休憩いたします。

（休憩）

再開いたします。

ここでお諮りいたします。

はじめに「技術・家庭（技術分野）の採択につきましては、『冒頭の「技術分野のガイダンス」で、学習の流れや身に付けたい力が示され、技術学習が夢や未来の創造、技術、エネルギー、生物育成、情報技術など、今日的課題の解決につながっていることなど、生活の発展と技術との関わりが重視された内容となっていること。巻末に切り取って使用できる「防災手帳」が掲載され、防災・減災との関連についてわかりやすくまとめられており、日常的に家族ぐるみで活用できるよう工夫されていること。各編の学習のめあて、「目標」が明確になっており、「学習のまとめ」では生徒も自己評価を行い、振り返って学習の定着を図られるよう工夫されていること。全体を通して、内容が一目でわかるよう写真やデータが豊富にあり、視覚的にわかりやすくなっており、生徒が主体的に取り組めるよう工夫されていること。実習等の安全・衛生面について、実習上の危機を回避し、実習の環境を整備することができるようになっていること。』などの点から、発行者、東京書籍の教科書を採択することにご異議ありませんか。

各 委 員

異議なし。

田中委員長

ご異議なしと認め、そのように決定いたしました。

続いて、技術・家庭（家庭分野）の採択につきましては、『冒頭の「家庭分野のガイダンス」が充実しており、生徒が生活の中から課題を見つけ、主体的にかつ見通しをもって学習できるようになっていること。「自分の生活をチェックしよう」「生活の課題と実践」で家族、地域社会との共生など、生徒が発展的に主体的によりよく生活するための理解を深める工夫がされていること。生活の基本である調理や食文化など、食生活の分野が最初に記載されており、生徒が親しみを持って学習できるとともに、食材や調理品など料理の写真が豊富で美しく掲載されており、生徒の興味関心を高める工夫がなされていること。調理や被服製作など技能を要する題材において

は、「基礎技能」のページが設けられ、安全面や効率性に配慮された資料が豊富に掲載されていること。環境、消費、防災などの今日的な課題について、表示やマーク、キャラクターの活用など、わかりやすく取り上げられていること。』などの点から、発行者、東京書籍の教科書を採択することにご異議ありませんか。

各 委 員
田中委員長

異議なし。

ご異議なしと認め、そのように決定いたしました。

次に英語の審議を行います。英語につきましては、6種から採択を行います。

伊藤 委員

それでは各委員からご発言願います。伊藤委員からお願いします。

東京書籍を推薦いたします。英語科においては、異文化の理解というのは当然でありますけれども、4技能、いわゆる「聞く」「話す」「読む」「書く」のバランスをうまく活用した形で、英語を通してコミュニケーション能力を育てるところにあると思っておりますが、東京書籍では、その4技能をバランスよく題材の中に配置し、生徒として、何を重点的に学ぶべきかということがわかりやすくマークで記されており、非常に効果的、あるいは有機的な関連を持たせた形で4技能が排列されていると思っております。それから、全学年に関して、わかりやすく、あるいは親しみやすい英語の歌を、一部ではありますけれども掲載したり、あるいは1学年においては小学校との関連を重視し、振り返りを促しながら、楽しく授業を進めるという形を取っていると同時に、2年3年では、高等教育につながるような配慮もなされていると思っております。また、全学年通して重要なことは、英語の基本であるフォニックス学習といったものを重視し、そういった形での内容が数多く取り上げられて、繰り返しの学習に非常に役立つようになっていると思っております。さらに異文化の理解ということで、「Unit」というコーナーを設けて、外国語、特に英語ですけれども、異文化への興味、関心、広がり、深まりを抱かせるような工夫がなされていると思っております。最後に、日本人の場合は、4技能のうち、「聞く」「話す」という部分で、なかなか上手に話せない、聞けないということがよくあるわけですが、東書の場合は、「聞く」「話す」という部分を非常に重点的に捉えた形の内容、構成になっていると見受けられました。「聞く」「話す」部門での学習では、見直しや振り返り、繰り返しなどができやすくなっており、効果が上げられやすいと感じました。巻末には、「Word List」「Bonus Word Box」といったものを取り揃えて、振り返り学習や発展学習に導きやすい手立てもなされており、そういった観点から東京書籍を推薦します。以上です。

田中委員長
門屋 委員

ありがとうございます。門屋委員お願いします。

私は長く使ってきている東京書籍ではなくて、教育出版の「ON

「E WORLD」を推薦したいと思います。その理由は、英語教育が長く教育されていても、英会話能力が低い、なかなか身に付かないということが話題となっておりますから、英会話、コミュニケーション能力を重点的に取り上げている教科書に注目しようと見ていたことと、外国語教育が小学校から入ってきて、2020年からは3年生の教科にも入るということを聞いておりますので、小学校を基礎として、継続した教育に配慮されているということにも視点を持って、教科書を見させていただきました。その結果、確かにA版とB版があって、A版のほうが大きくて見やすいということは多少あると思いますが、私が推薦した教育出版はB版で、B版が見にくいとはその時点ではあまり感じていなく、落ち着きがあるというように感じたところでありました。「ONE WORLD」は、小学校からの継続を意識とした構成となっているということが、一番の理由でもあります。他の教科書とは違って、一番対話文が多くて、総ページ数では東書よりも100ページも多いのですが、B版なので少なくとも50ページ以上の情報量があるというように思いました。別冊によって、問題提示も多くなって、取り組みやすいという思いもあります。目次の前に年間の学習の流れを示していきまして、3年間同じキャラクターが案内役を務める構成は、何を学ぶか、何を学んでいって今までとの関係は、この次は何を、という興味を引き出すのに配慮されていたように思います。語彙が他の教科書と比べ一番多くて、リスニングの頻度も高かったように思います。日本文化で落語を1篇掲載していたのはこの教科書だけだったのと、2年生の教科書に浦島甲一氏のハルニレの木が載っていて、英語教科書で身近に感じられる資料提供というのは、親近感も生まれて、好感が持てるひとコマのように思いました。大事なところには日本語訳が書かれていることから、自信のない子どもにも確認できる配慮がされ、高学年になるにつれて、福祉や盲導犬、水問題や児童労働などの社会問題を取り上げていて、英語を通して知識を広めることにも役立つと思いました。コミュニケーション能力の中では、今はパソコンを使って手紙を書くとか、メールをするとかということが多くなるわけですが、1年生のときに見開きでキーボードとへボン式ローマ字を掲げていたのはいいと思いました。繰り返しますけれども、教科書を変えるというのは、なかなか大変でしょうけれども、改めて英語教育の充実の機会としてほしいと思って、あえて変えた方がいいのではないかとということで、教育出版の「ONE WORLD」を推薦いたします。

田中委員長
藤澤 委員

ありがとうございます。藤澤委員お願いします。

私は東京書籍を推薦いたします。教科書の本編が「Unit」、「Daily Scene」、「Presentation」の3部構成

になっていることにより、「Unit」では英語の基本的な文を学び、「Daily Scene」で日常のいろいろな場面におけるコミュニケーションの仕方を学び、「Presentation」では、「Unit」と「Daily Scene」で学んだことを活用して、自己表現活動を行うという視点が良いと思いました。学習の基礎から発展へと確実な英語力が身につく構成になっていると思います。各学年にテーマがあり、1年「出会う」、2年「広げる」、3年「見つめ直す」とテーマに沿った授業が展開されていまして、3年間を通して学習が見通せること、題材に十勝平野での農業体験が取りあげられていることは、生徒にとって興味関心が持てる内容であり、学習意欲が高まる一因になっていると思われまます。小学校の外国語活動との関連を示しながら、適切な題材で、中学校3年間の学習で、「聞くこと」「話すこと」「読むこと」「書くこと」がきちんと組み込まれていると思いました。「学び方コーナー」「Let's Read」「まとめと練習」などで生徒が主体的に学習に取り組めるような工夫がされていました。イラスト、写真が多く、配色もよく、生徒が興味関心を持てる工夫がされていました。英語圏の国だけではなく、五大大陸を意識した環境問題や人間問題も取り上げていました。日本文化、食文化、伝統文化、落語などの紹介もしていました。「保護者の皆様へ」として、学習テーマの防災・安全、人権、道徳、環境と多岐にわたっていて、生徒たちが「グローバルに活躍できる人間に育っていくことを願っています」と書かれていたのが、英語を学ぶだけでなく、国際理解への興味関心がわき、国際人としての導きになっているというところが大変良いと思いました。以上の理由により、東京書籍を推薦いたします。

田中委員長
八鍬教育長

ありがとうございました。それでは八鍬教育長お願いします。

私は最終的には、東京書籍を推薦したいと思います。教育出版は門屋委員も言われておりました、十勝ゆかりの方の写真、作品などが織り込まれていて、また内容も大変充実していると思いました。いろいろ考えた中で、最終的には、英語の教育の目的は何だろうかというところで見えていきました。「聞く」「読む」「話す」「書く」という技能を習得、基礎を養うことは、もちろん中学生にとっては大変大切だと思いますけれども、これだけグローバルな社会に生きている生徒ですので、自らの考えをしっかりと伝えていく事ができるようなコミュニケーション能力として英語を身につけていくことができるような教科書を、という観点からも見てまいりました。最初に東京書籍では、1年生から3年生までの各学年において、必ず前の学年で学習したこととのつながりを確認した上で、それぞれの学年に入っていきます。それぞれの学年に応じた、4技能の習得を、物語や日常生活の様々な題材を使いながら、あるいは身近なテーマを

取り上げながら、系統的、発展的に学ぶことができるような工夫がされていると思いました。全学年の本編が「Unit」「Daily Scene」「Presentation」の3部構成になっていて、4技能の基礎・基本から日常生活におけるコミュニケーション学習、そして自己表現活動へと、バランスよく発展的に学ぶことができる工夫がされていると思いました。それから、各国の歴史や文化を、人物、建築物、あるいは風景などを通して、幅広く取り上げていて、広く興味関心を持って、国際理解にもつながることができると思いました。巻末には、全学年において、「Word List」が大変見やすく、判読しやすい配色で工夫されていると思いましたし、言語活動の幅を広げるために、全学年で多くの場面を想定した様々な活動の際の参考資料として「Tool Box」が掲載されるなど、生徒が自ら進んで学習しやすいような使用上の便宜が図られていると思います。そして、各教科書が様々な今日的な人物なり、作品なりを取り上げている中で、他のところにもありましたけれども、ノーベル平和賞をとったマララさんのスピーチがあったり、パラリンピックの陸上で活躍した佐藤さんなど、女性の活躍を取り上げながら、障害者とともに生きていく、あるいは様々な人権配慮、そういった形での作品の取り上げ方も良かったと思います。以上のことから、東京書籍を推薦します。

田中委員長

ありがとうございます。最後、私ですが、私も東京書籍と教育出版で実はかなり悩んだところでした。最終的な結論は、私も東京書籍の方がいいのではないかと思い、推薦させていただきたいと思いました。教育出版は、門屋委員からもいろいろな説明がございましたように、立派な教科書だと認識をしています。十勝ゆかりの方の文章なり、歌も出ていました。生徒にとっては身近なイメージを持つだろうと思うのですが、ただ、私が東京書籍にした一番大きな理由は、今教育長が言われたとおりですけれども、国際的もしくは多角的、現代的というイメージでいえば、いろんなトピックを数多く掲載しているような印象を持ったわけです。特にマララさんや、佐藤さんのことで感じました。それからジョン・レノンとか、何人かの方々が出ておりました。もう1つは、英語も数学と同じように好き嫌いがかなりはっきり分かれてくる科目だと思っております。その意味でいうと、そんなにたくさん出てくるわけではありませんが、「学び方コーナー」という部分がありまして、結構、的確に指し示されていると思いました。それから、これは藤澤委員がおっしゃられていた、十勝平野の農業体験の件も東京書籍には出ていたということがあります。最初の伊藤委員のお話に尽きますが、4技能とおっしゃっていましたが、やはり東京書籍が一番きっちりした形で学習できるのではないかと、違った言い方では、バランスが一番

取れているのではないかと理解をしていた次第です。以上の点から、私も東京書籍が良いのではないかと考えておりました。以上でございます。

田中委員長

それでは、発言は以上で終了したいと思います。今、各委員のご発言を伺っておりますと、東京書籍というご意見が多いと思っておりますけれども、教育出版というお話があった門屋委員はいかがでしょう。

門屋 委員

私は、これを機会にということ、少し強調して推薦をいたしました。優劣つけ難いことは良くわかりますし、東京書籍は今まで使い慣れているということもありますけれども、私としては「ONE WORLD」ということで、結論は皆さんのご意見に従います。

田中委員長

よろしいでしょうか。そうしますと、皆さんのご意見を総合いたしますと、英語の採択すべき教科書は、東京書籍というご意見で全員一致しております。

東京書籍を採択することにご異議ありませんか。

各 委 員

異議なし

田中委員長

ご異議がないようですので、採択理由を確認するため休憩いたします。

(休憩)

再開いたします。

ここでお諮りいたします。

「英語」の採択につきましては、『本編が「Unit」「Daily Scene」「Presentation」の3部構成となっており、「Unit」で基本的な部分を、「Daily Scene」で日常場面のコミュニケーション能力を、「Presentation」で自己表現活動を発展的に学ぶことができるようになっていること。今日的なトピックなどを扱いながら、適切な題材で「聞くこと」「話すこと」「読むこと」「書くこと」の4技能をバランスよく習得することができるようになっていること。各学年にテーマが設定されているだけでなく、前後の学年のつながりが意識された内容となっており、3年間を通した学習が系統的・発展的にできるように工夫されているとともに、小学校の外国語活動や高等学校の学習とのつながりに配慮されていること。各国の歴史、人物、風景、建物、文化などの題材を豊富に取り入れ、国際理解への興味関心をもって学ぶことができるように工夫されているとともに、題材に十勝平野での農業体験が取り上げられているなど、地域や郷土の話題として生徒の興味関心をひき、学習意欲を高めることができるようになっていること。「学び方コーナー」「Word List」「Tool Box」などから、生徒自ら振り返り、主体的・発展的に学習に取り組めるよう工夫されていること。』などの点から、発行者、東京書

籍の教科書を採択することにご異議ありませんか。

各 委 員
田中委員長

異議なし。

ご異議なしと認め、そのように決定いたしました。

次に特別支援学級の審議を行います。

特別支援学級の教科用図書につきましては、事務局の説明にあつたとおり、改訂が行われておりませんので、平成27年度に使用している文部科学省著作の教科用図書について審議を行います。各委員からご発言があればお願いいたします。

各 委 員
田中委員長

ありません。

別になければ、以上で終了いたします。

ここでお諮りいたします。

特別支援学級の採択につきましては、文部科学省著作の教科用図書を採択することにご異議ありませんか。

各 委 員
田中委員長

異議なし。

ご異議なしと認め、そのように決定いたしました。

以上で議案第52号、中学校用教科用図書の採択についての審議についてはすべて終了いたしました。

日程第5、その他に入ります。

教科用図書の採択に係る情報の公表についてを議題といたします。

直ちに説明を求めます。

嶋崎 部長

教科用図書の採択に係る情報の公表につきましてご説明いたします。義務教育諸学校の教科用図書の無償措置に関する法律におきまして、教科書を採択したときは、採択結果及び理由等を公表するよう努めることとされたところであり、また、北海道教育委員会の平成28年度から使用する中学校用教科用図書の採択基準におきましても、採択結果及び理由の公表は積極的に努めるとともに、公表の方法につきましては、教育委員会において決定するよう示されているところでもあります。これらのことから、今年度の中学校用教科用図書の採択に係る情報の公表につきましては、採択した教科書発行者名一覧、採択理由、本日の教育委員会会議の会議録、教科用図書選定委員会からの答申書及び調査研究資料などを、遅滞なくホームページで公表したいと考えているところでございます。また、このうち、採択いたしました教科書発行者名一覧につきましては、本日の教育委員会会議終了後、準備が整い次第、報道機関へ通知しようと考えているところでございます。説明は以上でございます。

これから質疑に入ります。

田中委員長
各 委 員
田中委員長

ありません。

別になければ、質疑を終了いたします。

教科用図書の採択に係る情報の公表方法については、事務局からの説明のとおり行うことにご異議ありませんか。

各 委 員
田中委員長

異議なし。

ご異議なしと認めますので、事務局においてはそのとおりに対応をお願いしたいと思います。

ここで、私から一言ご挨拶を申し上げます。平成28年度から使用いたします教科用図書につきまして、6月の選定委員の委嘱から始まりまして、約2ヵ月をかけ、本日の教育委員会会議におきまして採択されたところでございます。教育委員の皆様にはこの間、連日にわたり調査研究を行っていただき、また、本日は採択の審議を慎重、かつ適正に進めていただき大変ご苦労さまでした。ありがとうございました。帯広の将来を担う子どもたちのために、より適した教科書の採択に最後までご尽力いただきましたことに心から感謝を申し上げます。また、教育委員会の事務局の皆さんにおかれましても、いろいろな場面で私ども委員に対するご支援をいただき、ありがとうございました。皆様方のご尽力のおかげで、万事滞りなく進めることができ、厚くお礼を申し上げます。ありがとうございました。以上でご挨拶とさせていただきます。

事務局からの説明は以上であります。この際、各委員から他にご意見、ご質問等があれば、お受けいたします。

各 委 員
田中委員長

ありません。

別になければ、本日予定されておりました案件は、すべて終了いたしました。

以上で平成27年第13回帯広市教育委員会会議を閉会いたします。